

東京市史稿 變災篇 による江戸大火の研究

平成 23 年度
(2011)

東京理科大学 工学部 第二部 建築学科
辻本研究室

5108405 大橋美由紀

目次

序章

1 研究の背景と目的	1
2 研究方法	5

第1章 東京府下火災録と東京市史稿 變災篇における記載内容の相違点

1-1 東京府下火災録の大火を示した地図と東京市史稿 變災篇の記載内容の照合	6
1-2 火災発生年月日	6

第2章 江戸大火の概要

2-1 方法	7
2-2 火災発生年	10
2-3 出火月	11
2-4 風向	11
2-5 焼失直距離	12
2-6 出火時刻と火災継続時間、延焼速度	13
2-7 死者	15
2-8 まとめ・考察	17

第2章 江戸大火と 焼失面積 500 坪以上の火災の比較

3-1 火災発生年	18
3-2 出火月	19
3-3 出火時刻	20
3-4 死者	21
3-5 まとめ・考察	22

第4章 江戸大火のうち焼失範囲を明らかにした大火

4-1 方法	23
4-2 焼失範囲の状況	25
4-3 焼失面積と焼止り延長線	31
4-4 まとめ・考察	33

第5章 まとめ	34
---------	----

謝辞

付録

謝辞

本研究において、辻本誠教授および西田幸夫先生に大変お世話になりました。

特に、西田先生には火災に関する知識から研究内容まで丁寧にご指導いただきました。いつも気にかけて下さり、その都度アドバイスを頂きまして、より研究が進みやすくなりました。深く感謝いたします。

最後に、研究をまとめる上でアドバイスや協力をして頂いた辻本研究室の皆様に、深く御礼申し上げます。

付録

序章

1 研究の背景と目的

江戸時代，江戸では火災が頻発し多くの被害を出しており，多く文献がまとめられている。そのうち，江戸の大火の研究をまとめた主なものを表－1に示す。

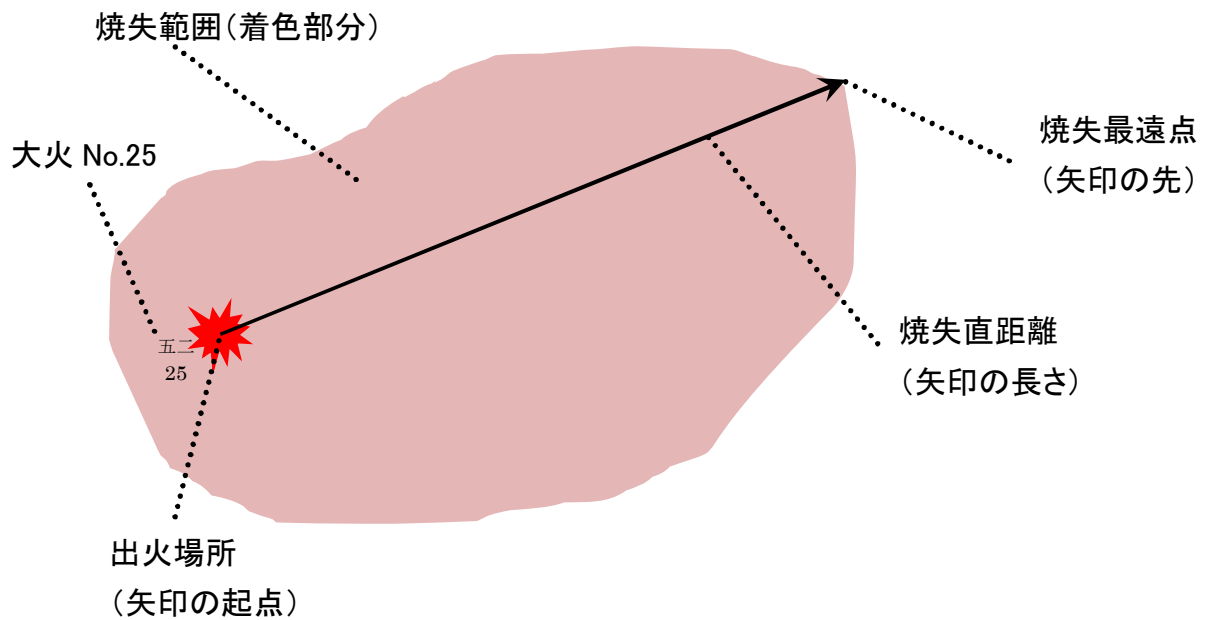
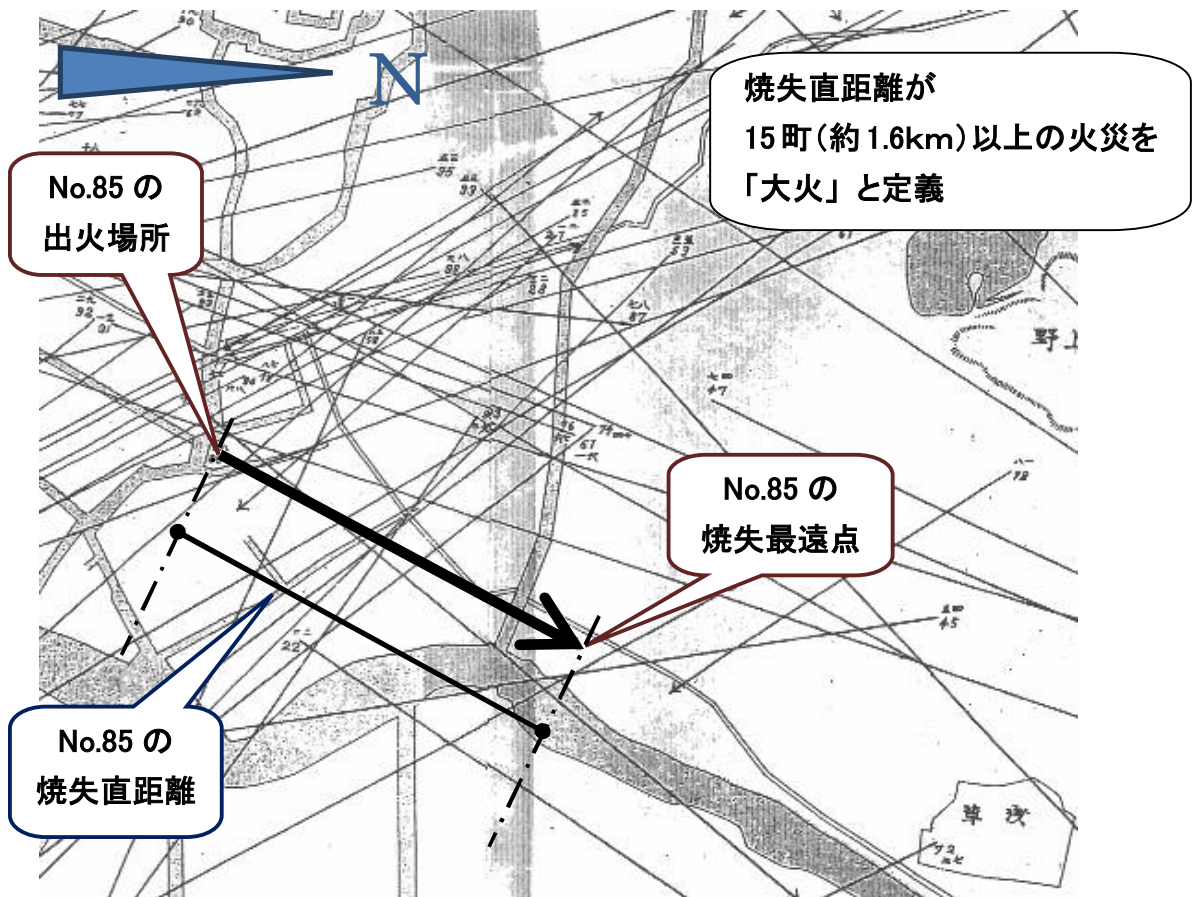
表－1 江戸大火の研究

No.	年	史料	主な参考文献
1	1881	東京府下火災録	不明
2	1917	東京市史稿變災篇 第4・5(火災篇)	年代炎上鑑，武江年表，月堂見聞集， 柳營日次記，池魚録抄，他多数
3	1952	東京災害史	歴代炎上鑑，後見草，他多数
4	1978	江戸災害年表，江戸町人 の研究	東京市史稿，藤岡屋日記
5	2002	江戸東京の火災に関する 研究	江戸災害年表，東京市史稿

表－1のNo.1の著者である山川健次郎は，1881年に東京大学発行の『理科會粹 東京氣象篇』（東京市史稿 變災篇 第5 p.1119-1133 に一部引用されている）に日本で初めての火災科学に関する論文として『東京府下火災録』を発表した。この論文において，出火場所と，焼失範囲の中で出火場所から最も遠い場所（以下，焼失最遠点）を直線で結んだ距離（以下，焼失直距離）が15町（約1.6km）以上の火災を「大火」と定義し，1657年から1881年までの期間に93件に及ぶ事を明らかにし，地図上に大火の方向と大きさを表した（表－2，図－1，図－2）。このうち江戸時代（1657～1868年）に発生した「江戸大火89件」（以下，江戸大火）を本研究の対象とする。

明治から大正時代に，東京市は，東京の歴史記録の基となる行政文書を中心とした基礎資料集として『東京市史稿』を編さんした。現在も，東京都公文書館によって編さんが続けられている。『東京市史稿』のうち江戸東京の火災に関する史料は『東京市史稿 變災篇 第4および第5（火災篇）』にまとめられている。

『東京市史稿 變災篇 第4および第5（火災篇）』の記載内容から，「江戸大火」に関する情報をまとめ，既往研究の一つである江戸時代における焼失面積500坪（1653㎡）以上の火災との比較分析をすることにより，「江戸大火」の火災被害の特徴を明らかにすることを目的とする。



語句の定義

- 焼失最遠点 焼失範囲のうち、出火場所から最も遠い町丁
- 焼失直距離 出火場所から焼失最遠点を結んだ直線距離

図-2 大火の大きさと方向を示した地図の説明

2 研究方法

『理科會粹 東京氣象篇 東京府下火災録』(以下、火災録)に記載のある大火93件はどのような資料を引用したかについて記載がない。そこで、引用文献を明示している『東京市史稿 變災篇 第4および第5』(以下、市史稿)を用いて、火災録に記載された内容を再検証した。市史稿の各年毎の見出しは簡潔に火災について記載され、続いて個別の火災について月日順に引用文献が記載されている。見出しに書かれた内容は、市史稿で後述される月日別の火災に関する引用文献で詳細が補足されている。

まず、火災録の大火の方向と大きさを表した地図(図-1)と、焼失直距離や年月日をまとめた火災録の大火のリスト(表-2)をもとに市史稿と照合し、同一の大火に関する記述を特定した。

次に、89件の江戸大火について、風向、出火年月日、出火時刻、収束時刻、焼失直距離、出火場所、焼失最遠点、死者に関する情報などを市史稿から入手しまとめ、既往研究のひとつである江戸時代における焼失面積500坪(1653㎡)以上の火災と、比較分析をおこなった。

江戸大火89件のうち本研究で焼失範囲を明らかにした大火5件の事例については、文献記載の地名や武家屋敷の所有者名などから、表-3の地図を使用し、焼失範囲を特定した。切絵図や現代の地図などで確認し、MapInfoを使用して明治12年の地図上に落とし込むことにより焼失範囲を可視化し、焼失面積、焼失直距離、焼失面積、焼止り線の状況を明らかにした。焼失範囲を明らかにした大火は、比較的文献が詳細に記載された江戸時代後期に発生した事例から5件を選定した。この5件は、江戸城の西側(No.73及びNo.88)、江戸城の東側(No.85及びNo.87)でそれぞれ風向が北と南の事例、明らかに風向きが変わった事例(No.78)である。

表-3 使用した地図

No.	編者	タイトル	出版社	出版年	内容
1	人文社編集部編	切絵図・現代図で歩く 持ち歩き江戸東京散歩	人文社	2006年	1850～1860年頃の地域ごとに折込みの切絵図を左ページ、同じ地域の現代の折込み地図を右ページに並べた本
2	人文社編集部編	切絵図・現代図で歩く 江戸東京散歩	人文社	2009年	1850～1860年頃の地域ごとに切絵図を見開き左ページ、同じ地域の現代の地図を見開き右ページに並べた本
3	東京市	東京市史稿 市街篇 附録、御府内沿革所 第一編～第三編	—	1940年	上記の2冊よりも細かく、地域ごとに、土地利用、武家屋敷の世帯主の名前を江戸時代の年代別に示した江戸の地図
4	東京市	明治12年修正 東京全図	—	1897年	MapInfoでの作図の基となる地図

第1章 東京府下火災録と東京市史稿 變災篇における記載内容の相違点

1-1 東京府下火災録の大火を示した地図と東京市史稿 變災篇の記載内容の照合

市史稿の中で、火災録の一部が掲載されている箇所（1119～1133 頁）と火災録原本の相違箇所は、市史稿の引用ミスと判断し、原本に記載された情報を用いた。No. 39 の旧暦の月日、No. 56 の焼失直距離の町数が該当する。

火災録の地図に記載された大火の方向と大きさを示す矢印と矢印に添えられた番号をトレーシングペーパーに写し、明治 12 年の地図に重ね、市史稿の記載内容から、年月日と地名を照合した。

記述の一部に、相違点が確認された。火災録の焼失直距離を示す地図（図-1）では、No. 61 と 62 の表記が各 2 本となっていた。地図に示された 2 本の No. 61 の矢印のうちの 1 本が 67 の誤記、同様に 2 本の No. 62 の矢印のうちの 1 本は 26 の誤記と考えると市史稿の内容と一致した。

1-2 火災発生日

火災録の No. 5, 10, 11, 18, 33, 34, 40, 55, 67, 68, 87 については、市史稿に年月日が一致する火災の事例がなかった。

そのため 1 年以内に、出火場所と焼失最遠点が一致する 15 町以上の火災が発生する可能性は極めて低いこと、また、火災録は参考文献が不明であるのに対し、市史稿では江戸大火 89 件中の多くの事例で 1 件につき複数の文献が掲載されていることから、火災録の地図（図-1）で確認した出火場所と焼失最遠点と一致する江戸大火の記載が市史稿にある場合は、市史稿の年月日をそれぞれの江戸大火の年月日と判断した。訂正前と訂正後の年月日を付録 1 の一覧表中に示した。

参考文献

山川健次郎, 東京府下火災録, 理科會粹第三帙第二冊 東京氣象篇 pp.99～114, 東京大学, 1881 年

東京市, 東京市史稿變災篇 4・5, 1917 年

人文社編集部編, 切絵図・現代図で歩く持ち歩き江戸東京散歩, 人文社, 2006 年

人文社編集部編, 切絵図・現代図で歩く 江戸東京散歩, 人文社, 2009 年

東京市史稿 市街篇 附録, 御府内沿革所 第一編～第三編, 1940 年

東京市, 明治 12 年修正東京全図, 1897 年

第2章 江戸大火の概要

2-1 方法

江戸大火について、第1章に記した方法で市史稿に記載された年月日を確認し、特定した大火について出火場所や出火時間などの情報をデータ化した。市史稿で複数の文献があり、異なる記載内容である場合は、次の規則に従って情報を得た。

火災発生年月日

- ① 火災録の地図（図-1）の矢印の始点と終点の場所を確認した。
- ② 火災録の大火の一覧表（表-2）と市史稿に記載の年月日と場所を照合し大火の年月日を確認した。
- ③ 市史稿に記載の旧暦の年月日をもとに新暦（西暦での年月日）に変換した。
- ④ 旧暦での表記では、子刻と丑刻（おおよそ午前0時±1時間から2時±1時間）は前日に含まれるため、前後の文脈より、子刻と丑刻に発生し翌日の朝火災が広がったという記載があった場合は、出火の年月日に1日加え翌日とした。
- ⑤ ②の方法で一致する年月日の大火に関する記載が市史稿にない場合、1-2に記載した考え方に従って年月日を特定した。火災録の大火の一覧表（表-2）に記載された年月日から変更したものを表-4に示す。

出火時刻と火災継続時間、延焼速度

時刻に関しては、表-5に従って、現在の時刻の24時間表記とした。子刻または八つ時（おおよそ23時から1時）、丑刻または七つ時（おおよそ1時から3時）、以下同様、と江戸時代の時刻表示を2時間ごとに分けて、前、過ぎ、后、半刻過などは考慮しない。すべて昼夜の長さが12時間ずつで一定と仮定し、それぞれの刻の中心時刻（子刻の範囲はすべて0時、丑刻の範囲はすべて2時、以下同様）であらわし、24時間を0時、2時、4時・・・と2時間刻みでのデータとした。

例： 午刻前、午上刻、午下刻、午刻過、午后刻、午半刻、昼九ツ時などは、すべて12時とする

市史稿に記載された複数の文献で異なる記載があった場合は、出火時刻と収束時刻の両方の記載があるもので、町数など焼失範囲や死者などに関する情報量の多いものを採用した。

収束時刻が明らかな大火については下記の計算式で火災継続時間を求め、更に焼失直距離と火災継続時間から延焼速度を算出した。

$$\text{火災継続時間 (hr)} = \text{収束時刻} - \text{出火時刻}$$

$$\text{延焼速度 (m/hr)} = \text{焼失直距離 (m)} / \text{火災継続時間 (hr)}$$

表-4 変更した火災発生年月日

江戸 大火 No.	和暦		月/日		西暦(年/月/日)		出火町名	焼止町名	出火 時刻	収束 時刻
	訂正前	訂正後	訂正前	訂正後	訂正前	訂正後			(時)	(時)
5	寛文 1		1/27	1/20	1661/2/26	1661/2/19	元鷹匠町	京橋	10	24
10	延宝 4		11/7	12/7	1676/12/11	1677/1/10	三谷遊郭	本庄中ノ郷	20	
11	天和 1	天和 2	12/28	11/28	1682/2/5	1682/12/26	河田ヶ窪	芝海岸	10	20
18	元禄 13		2 月	2/6	1700/4	1700/3/26	下谷屏風坂	両国橋	16	
26	正徳 5		12/28	1/1	1716/1/24		大名小路	木挽町	2	14
33	享保 6		2/3	3/3	1721/2/28	1721/3/30	神田三河町	千住	10	24
34	享保 6		2/4	3/4	1721/3/1	1721/3/31	牛込拂方町	道灌山	8	16
40	享保 9		3 月	1/30	1724/4	1724/2/24	山下門外加賀 町	芝口海手	12	
55	明和 8		9 月	2/29	1771/10	1771/4/13	村松町	橋場	4	12
67	寛政 9		10/22	11/22	1797/12/9	1798/1/8	神田佐久間町	深川木場	10	20 翌日
68	寛政 11		3/7	3/10	1799/4/11	1799/4/14	麻布古川新屋 敷	市兵衛町	10	18
87	安政 5		12/15	11/15	1859/1/18	1858/12/19	神田相生町北 方	京橋	4	22
89	慶應 2		11/9	11/10	1866/12/15		元乗物町	京橋・八丁堀	2	12 翌日

表-5 新旧暦時間・方角一覧表

旧暦の時刻			現在の時刻	本論文	江戸の方角	本論文
子刻	九ツ時	夜半	23-1 時	0 時		北
丑刻	八ツ時	夜半	1-3 時	2 時	艮	北東
寅刻	七ツ時	暁	3-5 時	4 時		
卯刻	六ツ時	明	5-7 時	6 時		東
辰刻	五ツ時	朝	7-9 時	8 時	巽	南東
巳刻	四ツ時	昼	9-11 時	10 時		
午刻	九ツ時	真昼	11-13 時	12 時		南
未刻	八ツ時	昼	13-15 時	14 時	坤	南西
申刻	七ツ時	夕	15-17 時	16 時		
酉刻	六ツ時	暮	17-19 時	18 時		西
戌刻	五ツ時	宵	19-21 時	20 時	乾	北西
亥刻	四ツ時	夜	21-23 時	22 時		

※江戸時代の時刻は、日出を卯刻(六ツ時)、日没の酉刻(六ツ時)とし、6等分して表の通り表記した文献の表記を現在の時刻に変換する際は、昼と夜の時間が同じ春分および秋分の日を基準とした

死者

市史稿に死者数が記載された複数の文献がある場合は、死者数が多い文献を採用した。

風向

出火時の風向とした。市史稿で、火災の継続時間内に風向が変わったという記載がある場合は、付録1の表に記載した。

江戸表記の方角が記載された場合は、表-4に従って、現在の方角の表記とした。

複数の異なる記載がある場合は、最も多い風向とした。

西北、西南、東北、東南はそれぞれ北西、南西、北東、南東とした。

上記の方法で、文献から得られた江戸大火に関する情報の詳細の一覧表を付録1に示す。

この情報から次の結果を得た。

2-2 火災発生年

最も多い年は1668年の4件で、期間では1695年から1732年の38年間で34件（38%）となっている（図-3）。この期間には、元禄地震（1703年）、宝永地震・富士山噴火（1707年）等の天災が発生している。また享保の改革（1716-1735年）による幕政転換期で、町人が経済力をつけた時期である。

1718年は町火消しの組合が設置され、1720年にはいろは47組となったが、この時期に江戸大火は減少していない。

なお、1657年の明暦の大火は同日に2ヶ所、翌日に1ヶ所であり、それぞれ別の大火として3件となっている。

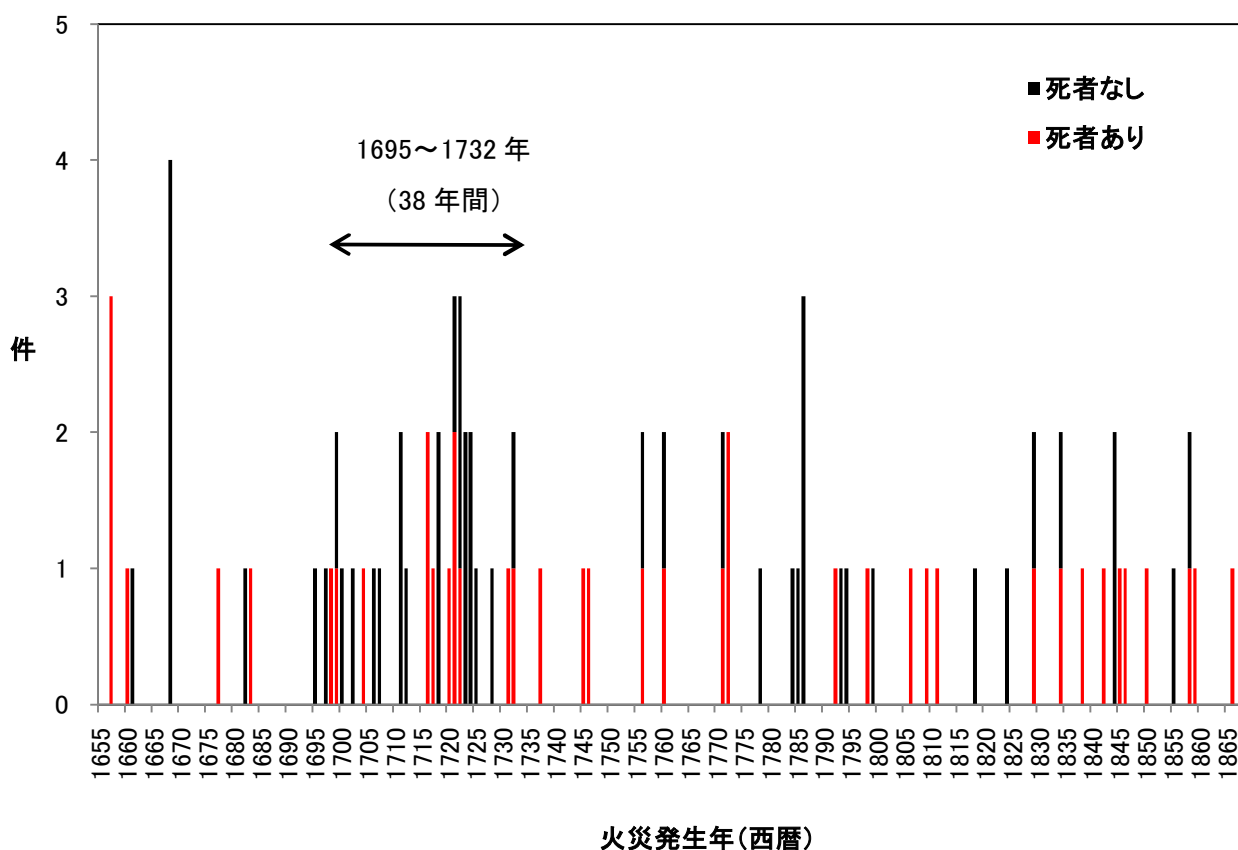


図-3 江戸大火 89 件の発生年

2-3 出火月

出火月は3月が30件（34%）と最も多く、その前後の2月から4月の3ヶ月間で57件（64%）、冬と春12月から5月の6カ月に82件（92%）となっている。これに対して、夏の7・8月は0件である（図-4）。

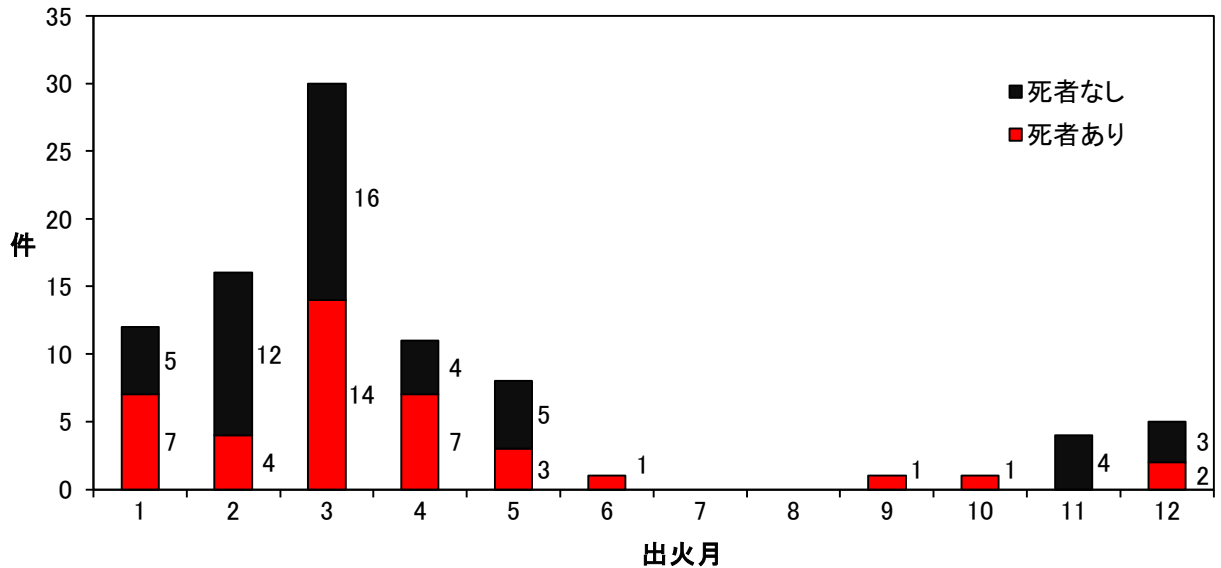


図-4 江戸大火 89 件の出火月

2-4 風向

冬から春の東京の風向は北と北西が多くなっている。2-3より出火月は冬から春に多く、北と北西の風の日の江戸大火の件数が63件（71%）と多くなっている。（図-5）

風向きの変化に関する記載のある江戸大火は、16件（18%）である。

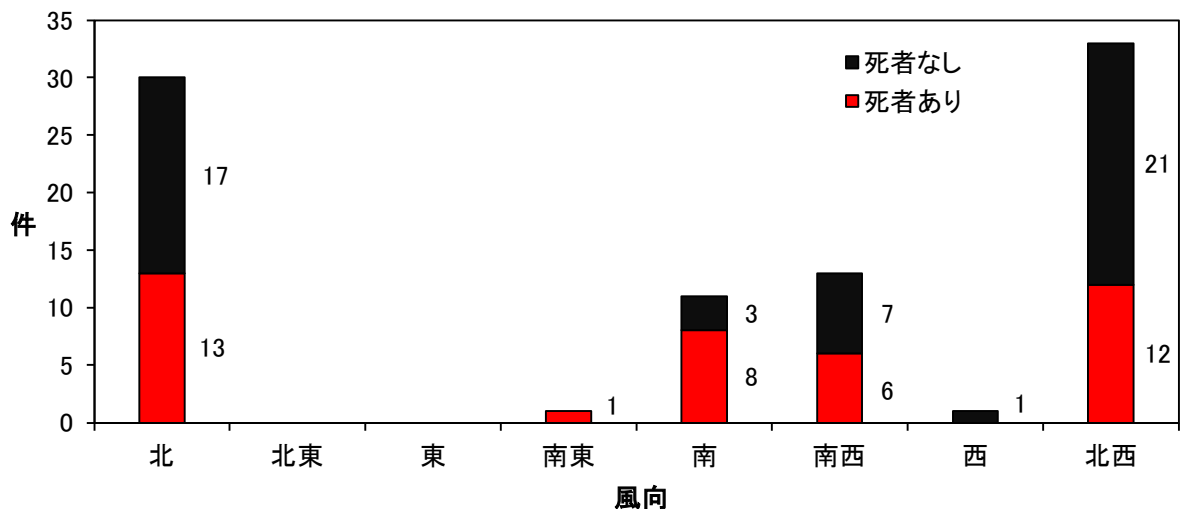


図-5 江戸大火 89 件の出火時の風向

2-5 焼失直距離

焼失直距離 2km 未満の火災が最も多く 21 件 (24%) で、6km 以上の火災は 11 件 (12%) である (図-6)。最も焼失直距離の大きい江戸大火は No. 56 目黒行人坂の大火で 133 町 (14.5km) である。

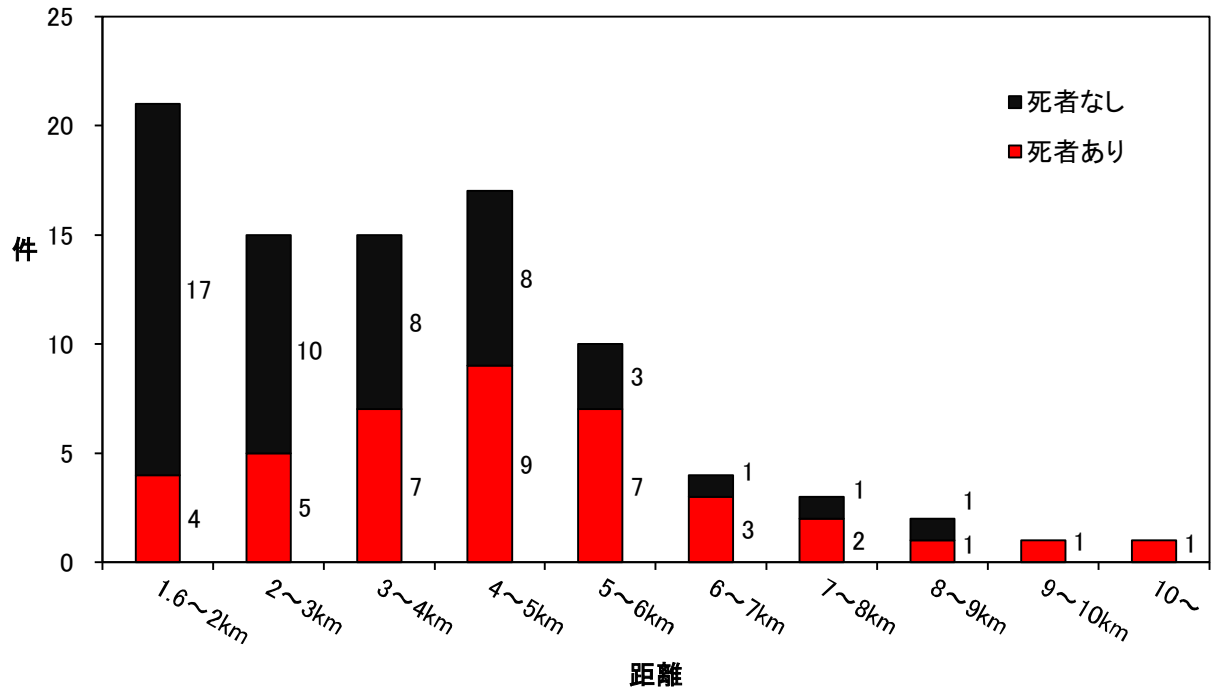


図-6 江戸大火 89 件の焼失直距離

2-6 出火時刻と火災継続時間, 延焼速度

出火時刻は子刻（23～1時）から2時間刻みの江戸時刻で分類した。出火が多い時刻は、昼間の巳刻～未刻（10～16時）で54件（61%）である（図-7）。

収束時刻と火災継続時間, 延焼速度が明らかな火災は79件である。

火災継続時間は火災No.67（1798年1月8日）で, 34時間（焼失直距離3.3km）が最長である（図-8）。

最も延焼速度（焼失直距離/火災継続時間）が大きい火災はNo.19（1702年3月9日）で約1000m/hrである（図-9）。

焼失直距離と火災継続時間は $R^2 < 0.1$ であり, 相関が見られない（図-10）。

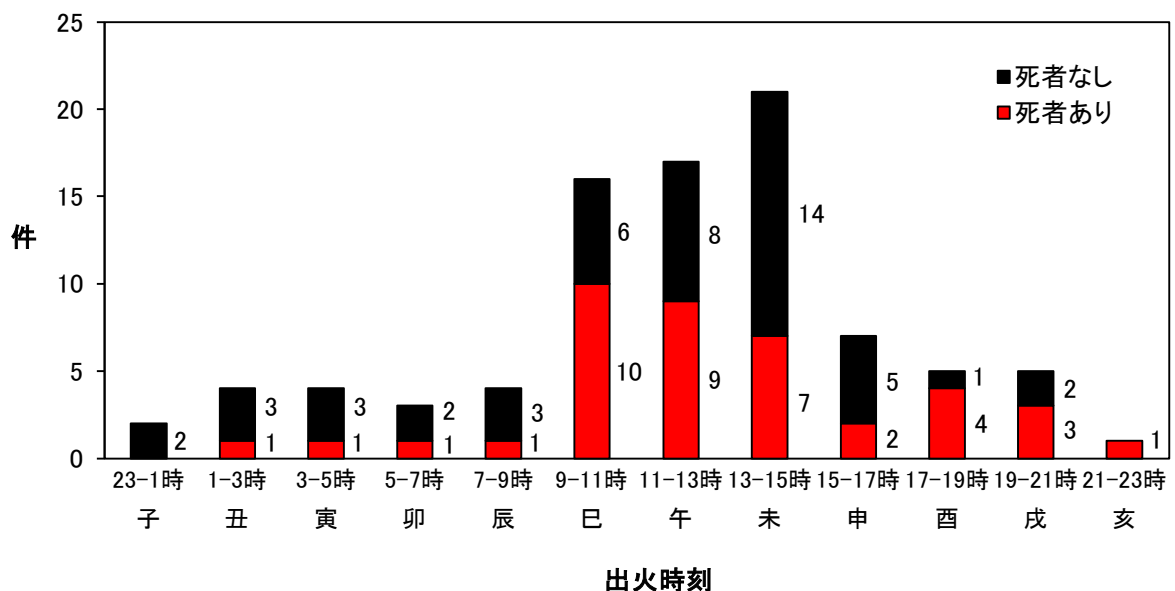


図-7 江戸大火 89 件の出火時刻

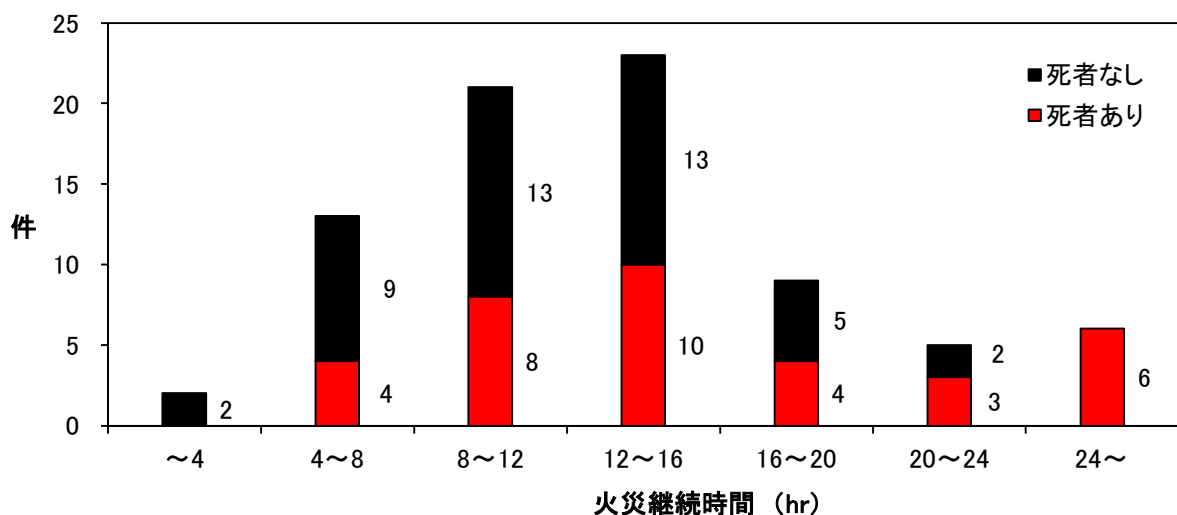


図-8 江戸大火 79 件の火災継続時間

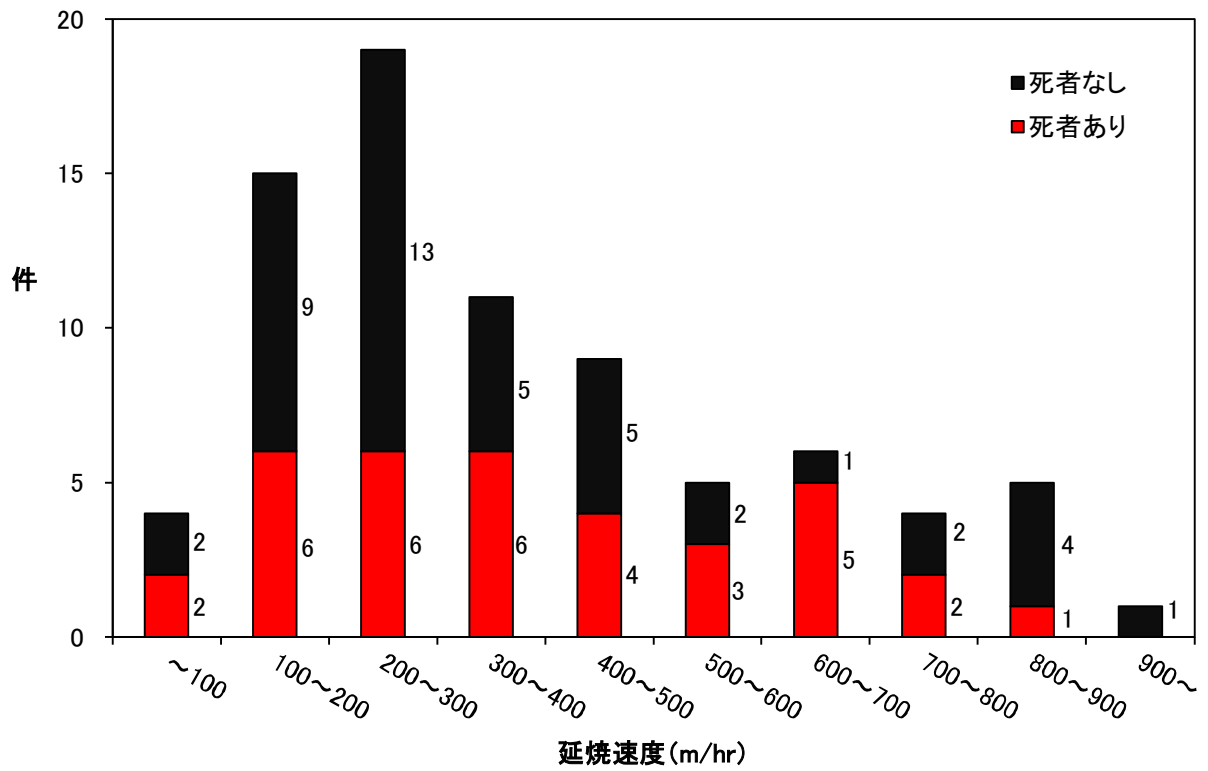


図-9 江戸大火 79 件の延焼速度

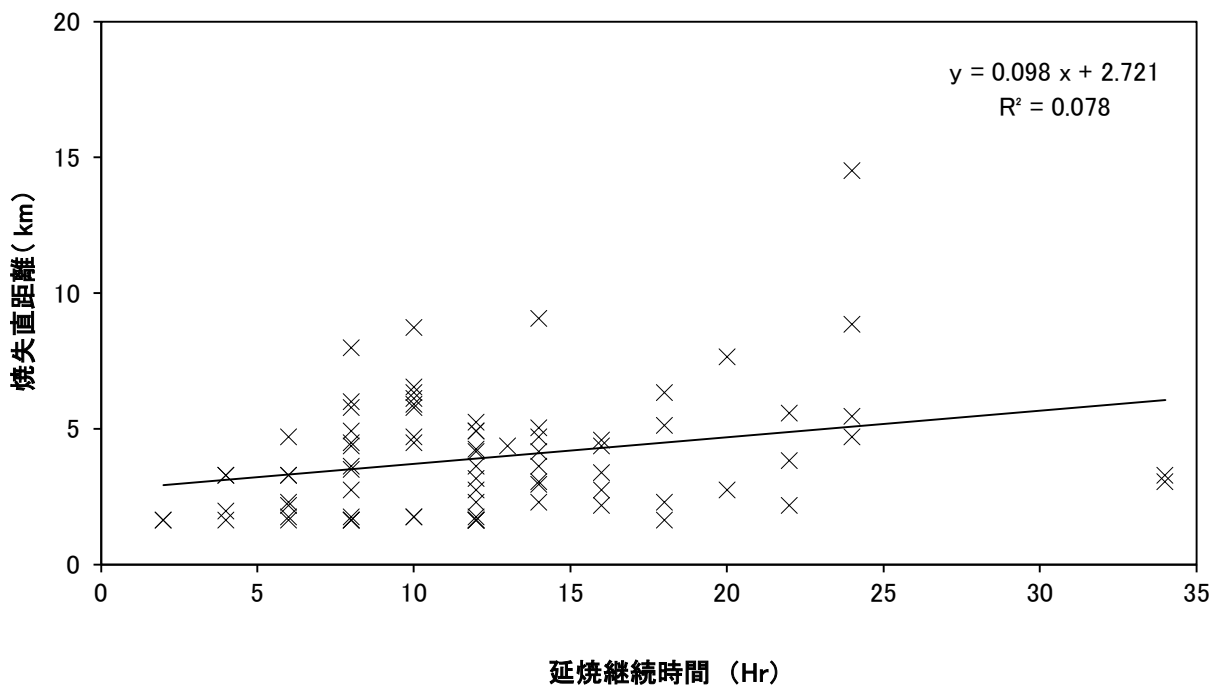


図-10 江戸大火 79 件の火災継続時間と焼失直距離

2-7 死者

市史稿に死者の記載がある江戸大火は 89 件中 40 件（45%）で、最も多いのは、No. 1～3 の明暦の大火である。この火災の記録には幅があり、最も多い死者数の記録が 10 万 7046 人（武江年表）少ない記録では 3 万 7000 人（明暦炎上記）である。（以下、死者の記載のある火災を死者火災とする）

火災発生年，火災発生月，風向，出火時刻，延焼速度は死者の有無と相関していない。

市史稿で，風向きの変化の記載のある火災は 16 件であり，このうち死者火災は 10 件（63%）である。

一方，風向きの変化の記載のない江戸大火は 73 件で，このうち死者火災は 30 件（41%）である。

焼失直距離で見ると，4km 未満は 51 件中死者火災 16 件（31%）であるが，4km 以上で，38 件中 24 件（63%）と大きくなっている（図-7）。

火災継続時間は，16 時間未満では 59 件中死者火災 22 件（37%）であるが，16 時間以上の大火で，20 件中 13 件（65%）と大きくなっている（図-8）。

死者 1000 人以上という特に被害の大きい江戸大火は 16 件（18%）あり，このうち焼失範囲が浅草・神田・日本橋・京橋などの代表的な町人地を含むものが 14 件である。江戸城の西側は No. 44（目白台から芝を焼失）及び No. 46（千駄ヶ谷から品川を焼失）の 2 件のみであり，特に人的被害の大きい江戸大火では，江戸城の東側の町人地を焼失している（表-6）。

表-6 死者 1000 人以上の江戸大火

江戸大火 No.	西暦年/月/日	風向	距離 (km)	出火町名	主な焼失地域	焼止り町名	出火時刻	延焼継続時間	延焼速度 (m/hr)	人数	死者等の記述 [市史稿中の文献]
1	1657/3/2	北	5.2	本郷	本郷筋・神田東本願寺・本町・横山町・向島・本丸・二の丸・三の丸・天守閣・神田橋門・常盤橋門・呉服橋門・数寄屋橋門・鍛冶橋門	東佃島・深川	14	12	436	107006	10万2000余人 [明暦日録][上杉年譜]3万7000余人 [明暦炎上記]5-60000人 [細川家記續編]町人計3万7200余人 [中邑世紀秘説]10万7006人 [むさしあふみ]10万2100余人 [武江年表]10万7046人
2	1657/3/3	北	5.8	小石川		鉄砲津	10	8	723		
3	1657/3/3	北	4.4	麴町		芝浦	16	16	273		
56	1772/4/1	南西	14.5	目黒行人坂	麻布・芝・郭内(辰巳三重櫓・和田倉・馬場先・日比谷・神田諸門)・日本橋・神田・本郷・下谷・浅草	千住	12	24	605	14700	数千 [北叟遺言]14700+行衛不明人4060
57	1772/4/1	南西	2.7	本郷	北:菊坂台町	駒込・根岸	18				
76	1834/3/16	北	3.6	神田佐久間町	東両国・西今川橋・本町通・築地・鉄砲洲	靈巖島・佃島	12	12	300	4000	[北叟遺言]4000人余、此外水死又行衛知れず無数
12	1683/1/25	北西	6.3	駒込	東下谷・浅草・本所・南本郷・神田・日本橋(湯島・浅草橋・本所回向院)	本郷・神田・日本橋	12	18	352	3500	[萬天日録]凡3500人余 [天和笑妻集](本郷あたり)ほそきこうじに...おし合せき合もだへ居て、老人女わらべふみころさえ、おしころされ...數萬の男女けふりにむせびほのうにさえられ...其間半町にたらさる石坂にて死けるもの200余人
15	1698/10/9	南	9.1	南鍋町	湯島天神下・下谷・土手切・三谷	千住	10	14	647	3000	[元正間記]上野下に焼死人100人余 [歴代炎上鑑]3000人余
67	1798/1/8	北西	3.3	神田佐久間町	浜町・薬研堀・大川・海辺新田	深川木場	10	34	96	3000	[政鄰記]死人3千計
74	1829/4/24	北西	3.8	神田佐久間町	日本橋・京橋	芝	10	22	174	2801	[内廻状留]武家方焼失人945人・往来焼死人1856人(=2801人) [武江年表]焼死溺死1900余人 [薪の烟]焼死人1218人・其外溺死之者貳萬餘人と云
20	1704/1/9	南西	5.1	小石川水戸邸	本郷・下谷・浅草	本所・深川	18	18	285	2600	[中村雜記]5~600人 [天享吾妻鑑][甘露叢]両国橋広小路で85人、水底に沈者数知れず、浅草見附まで凡そ死人400人余 [元變異記]溺死700余人、焼死夥りし、けが人700人、此時あいにて死者2600人、海へ流れてたる死骸幾百人 [月堂見聞集]両国橋あたりで6~700人余
33	1721/3/30	南西	4.1	神田三河町	下谷・浅草	千住	10	14	296	2100	この年の春6回の火災の合計2100余人
48	1745/3/14	北	7.4	千駄谷	青山・麻布・白銀	高輪・品川	12			1323	焼死する者甚だ多し [年代炎上鑑]焼死之者150程 [政鄰記]1323人(細川殿右居屋敷236人・松平陸奥守下屋敷398人、689人は町人體の者、他に750人計武家町共あやまち人)
16	1699/1/10	北西	2.5	石町	八丁堀	鉄砲洲	10			1300	年:1200~1300人
69	1806/4/22	南	8.8	芝	郭内(山下御門・数寄屋橋・常盤橋御門)・京橋・日本橋・神田	浅草	10	24	368	1200	1200余人 [ききのまにまに]1250余人
44	1731/5/20	北西	6.5	目白台	牛込・麴町	芝	12	10	655	1000	[月堂見聞集]1000人余

2-8 まとめ・考察

火災発生日、風向、出火時刻、延焼速度は死者の有無と相関しない。

焼失直距離や火災継続時間が大きいと、死者火災の割合が大きくなっている。焼失直距離や火災継続時間が大きいということは火災の規模が大きいといえる。

しかし、死者の有無と関係ないように見える延焼速度については、延焼速度が比較的小さい100～200m/hrでは、死者ありの火災6件のうち、風向の変化の記載がある3件には死者の記録がある。また、風向の変化に関する記載のある16件中、死者火災は10件（63%）である。風向の変化によって死者が多くなったことが示唆される。風向が変わると、焼失面積に対して焼失直距離が短くなりやすく、実際の延焼速度を反映していない可能性がある。焼失直距離／火災継続時間で延焼速度を求めたため、風向が変わって延焼の方向が変わった時や燃え広がり方が直線的ではない場合は、実際の延焼速度が、算出した値よりも大きいことになる。このような場合は、火災から遠ざかる方向に逃げているつもりでも実際はそうではなかったり、川や堀などの位置によっては逃げられなくなってしまう可能性がある。

江戸大火のうちで死者1000人以上という特に人的被害の大きいものは、江戸城の東側の町人地を焼失範囲に含むものが14件中12件（86%）で多くを占めている。図-1の江戸東京大火93件の方向と大きさを表した地図において、矢印の線の重なりが江戸城の東側で多いことが見てとれる。江戸城の東側を通る江戸大火は、57件（64%）に対し、江戸城の東側を通らない江戸大火は、32件（36%）であるので、頻度が大きいだけでなく、被害の程度も大きくなりやすいことがわかる。

参考文献

- 山川健次郎、東京府下火災録、理科會粹第三帙第二冊 東京氣象篇 pp.99～114、東京大学、1881年
- 東京市、東京市史稿變災篇 4・5、1917年
- 畑市次郎、東京災害史、都政通信社、1952年
- 吉原健一郎、江戸災害年表、江戸町人の研究第五巻 pp.437～565、吉川弘文館、1978年
- 西田幸夫、江戸東京の火災に関する研究、2002年
- 人文社編集部編、切絵図・現代図で歩く持ち歩き江戸東京散歩、人文社、2006年
- 人文社編集部編、切絵図・現代図で歩く 江戸東京散歩、人文社、2009年
- 東京市史稿 市街篇 附録、御府内沿革所 第一編～第三編、1940年
- 東京市、明治12年修正東京全図、1897年

第3章 江戸大火と同時代における焼失面積 500 坪以上の火災の比較

江戸大火の 89 件と焼失面積 500 坪以上の火災 492 件と比較した。500 坪以上の火災の詳細を付録 2 に示す。江戸大火 89 件のうち、焼失面積が分かる 500 坪以上の火災と重なるものは 40 件（このうち 22 件が死者火災）であった。

死者火災は、江戸大火で 89 件中 40 件（45%）、500 坪以上の火災では 492 件中 29 件（6%）である。500 坪以上の死者火災 29 件のうち 1 件は地震による死者火災である。

3-1 火災発生年

火災発生が多い期間は、江戸大火が 1695～1732 年（元禄 8 年～享保 17 年）の 38 年間に 34 件（38%）であるのに対し、500 坪以上の火災では 1851～1868 年（嘉永 4 年～慶応 4 年）で、幕末 31 年間に 492 件中 201 件（41%）である。500 坪以上の火災では、1695～1732 年（元禄 8 年～享保 17 年）の 38 年間に 59 件と 1769-1803 年（明和 6 年～享和 3 年）の 35 年間に 133 件にも小さいピークがある（図-11、表-7）。

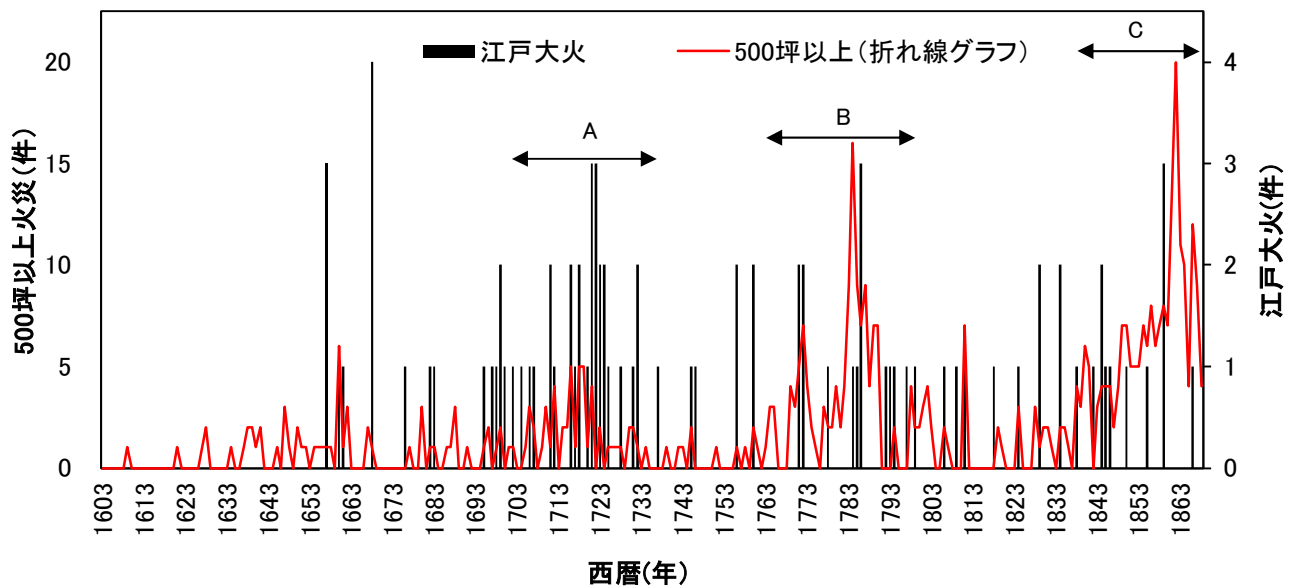


図-11 火災発生年の比較

表-7 火災発生年の比較

	期間(西暦)	期間 (年)	江戸大火		期間(西暦)	期間 (年)	500 坪以上の火災	
			件数	%			件数	%
A	1695-1732	38	34	38	1695-1732	38	59	12
B	1769-1803	35	15	17	1769-1803	35	133	27
C	1838-1868	31	12	13	1838-1868	31	201	41
	1657-1868	212	89	100	1657-1868	266	492	100

3-2 出火月

火災発生月は江戸大火と500坪以上の火災共に差異がなく、冬から春にかけて多く、夏は少ない。

共に3月が最も多く、江戸大火は30件で、500坪以上の火災は89件である。江戸大火の方がより3月の出火の割合が大きく、500坪以上の火災では3月がピークではあるが、1月から特に多くなっている。

江戸大火7・8月は0件で、500坪以上の火災では7月が最も少なく7件である。(図-12)

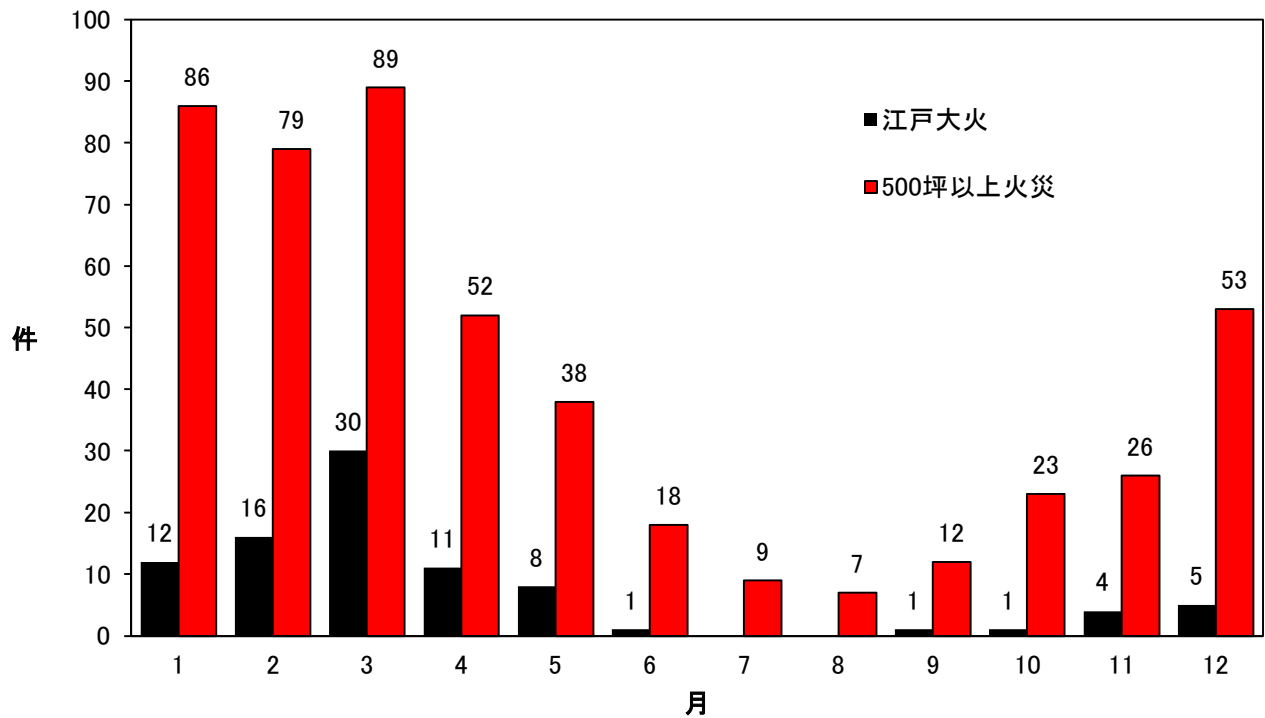


図-12 出火月の比較

3-3 出火時刻

出火時刻は、江戸大火では昼間の巳～未刻（9～15時）に多く、54件（61%）、500坪以上の火災では深夜の子～寅刻（23～5時）に多く、370件中159件（43%）となり、明確な差異が認められた。（図-13）

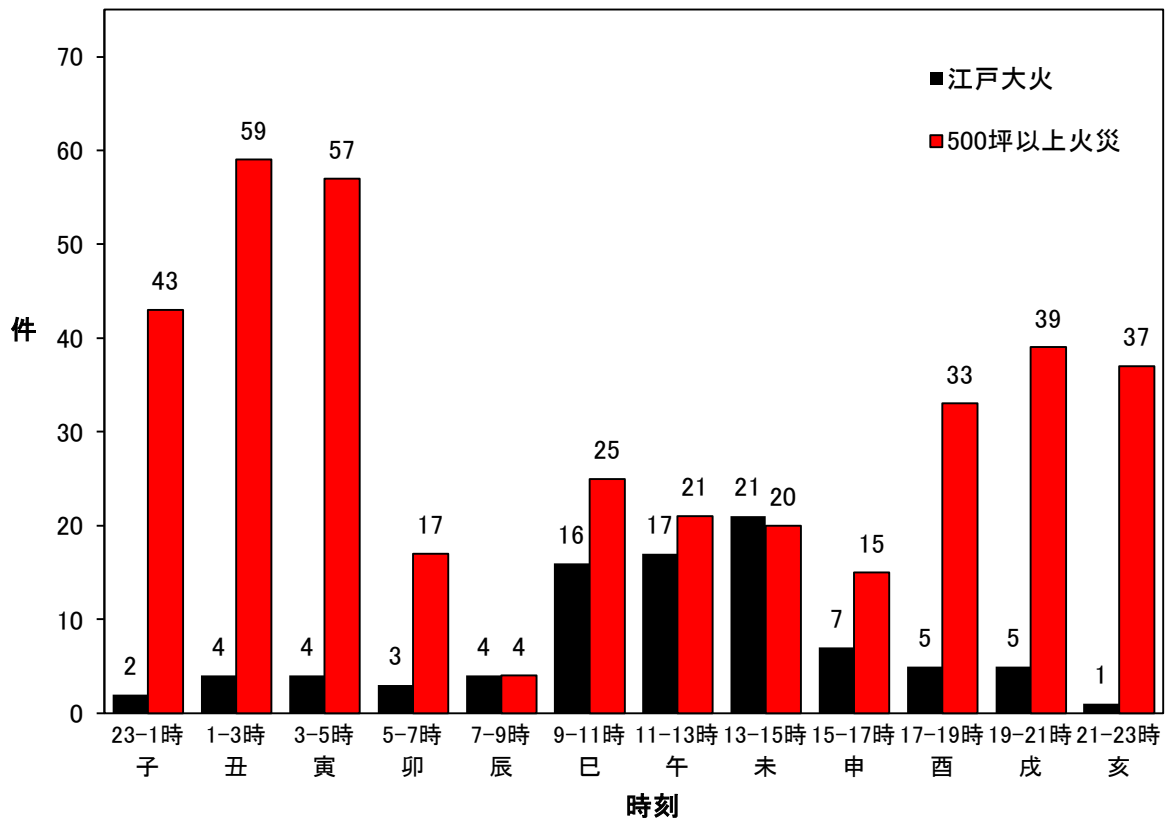


図-13 出火時刻の比較

3-4 死者

江戸大火では 89 件中 40 件、500 坪以上の火災では 492 件中 29 件が死者火災であった。500 坪以上の火災と共通の江戸大火 41 件のうち 21 件が死者火災であった。500 坪以上の死者火災 28 件のうち、15 件（54%）が江戸大火であり、規模が大きい火災での死者発生の割合が大きい。（表-8）

表-8 500 坪以上の火災のうち死者火災の事例 28 件（地震による死者火災 1 件を除く）

江戸大火 No.	新暦変換日時			出火場所	焼損面積 k㎡	死者数 (人)	死者記述	備考	項目
	西暦	月日	時						
	1627	11月7日		横山町辺寺町	0.60		死者多し		横山町辺寺町より出火、40 町ほど焼亡、死者多しという
	1641	3月11日	子	京橋桶町1丁目	1.46	388	死者数百人		子刻京橋桶町1丁目より出火、被害町数 97、1900 余の屋敷百数十軒の侍屋敷焼失、死者数百人におよぶ
	1654	5月10日		本町1丁目	0.02	2			本町1丁目大工弥三郎宅より出火、室町・瀬戸物町・小田原町に延焼、170 戸を焼失
1~3	1657	3月3日		小石川鷹匠町	7.50	102,000	死者 10 万人	明暦大火	午後小石川鷹匠町出火、焼失町数 500 余、死者 10 万人を超えるという
4	1660	2月24日	巳	湯島天神大門前、神田明神裏門前茶屋、八丁堀	1.79	95	死者多し		巳下刻湯島天神大門前より出火、神田明神裏門前茶屋より出火、八丁堀まで延焼 119 町 2358 軒を焼く、死者多し
15	1698	10月9日	寅	新橋南鍋町	4.89	3,000		勅額大火	寅中刻新橋南鍋町より出火、326 町を焼く(市史稿?3,000 人死者)
	1702	3月29日		南八丁堀湊町2丁目	0.08		死者あり		南八丁堀湊町2丁目久志本店より出火、5 町ほど焼く
	1712	3月29日	申	新材木町	0.83		死者あり		申刻新材木町(乗物町、堀江町ともいう)より出火、5-60 町を焼く
28	1717	3月4日	未	小石川馬場	3.00	117	死者 100 余人	小石川馬場大火	未下刻小石川馬場井出三郎右衛門宅より出火、町屋 200 町余を焼失、死者 100 余人出す
	1719	1月24日	未	小石川伝通院辺	8.57		死者あり		未上刻小石川伝通院辺商家より出火、幅 10 町、長さ 2 里ほどという
45	1732	4月22日		浅草新寺町	0.05	250	250 人		屋前浅草新寺町檜物師菊屋五郎左衛門宅より出火、3 町ほど焼ける
48	1745	3月14日	午	四谷千駄ヶ谷(青山六道辻とも)	17.24	1,323	死者 1323 人	六道火事	午上刻四谷千駄ヶ谷滝川播磨守下屋敷(青山六道辻とも)より出火、幅 11-2 町、長さ 3 里余、死者 1323 人という
53	1760	3月22日	酉	神田旅籠町1丁目	2.68		死者あり		酉中刻神田旅籠町1丁目足袋商明石屋嘉兵衛宅より出火、平均幅 9 町・長さ 25 町にわたる
	1760	3月22日	酉	芝神明門前	0.21		死者あり		酉刻芝神明門前より出火、幅 80 間、長さ 13 町という
56~57	1772	4月1日	午	目黒行人坂大円寺	14.01	14,700	死者 14700 人、行方不明 4060 人余	行人坂大火	午下刻目黒行人坂大円寺より出火、行人坂大火と称せられる。また、暮六ツ時前本郷丸山菊坂の道具屋と八宅より出火、町数 934、死者 14700 人、行方不明 4060 人余と書き上げられる
67	1798	1月8日	巳	神田佐久間町	1.71	3,000	死者 3000 人		朝四ツ時半ごろ神田佐久間町干温純屋より出火、幅 2 町、長さ 2 里焼失す、死者 3000 人という
69	1806	4月22日	巳	芝車町	6.00	1,250	1000 人越える	丙寅大火	屋四ツ時半過芝車町家主幸次郎明店より出火、幅平均 7 町、長さ 2 里余の大火となる、焼死者 1000 人を越える
71	1811	3月5日	申	市谷谷町	8.66	500	死者数百人		申上刻過市谷谷町より出火、幅 13 町、長さ 1 里 20 町を焼失、死者数百人を出す
74	1829	4月24日	巳	神田佐久間町2丁目	8.57	2,801	焼死者 2800 人余	己丑大火	巳刻過神田佐久間町2丁目河岸村木屋尾張屋徳右衛門の材木小屋より出火、幅 20 町、長さ 1 里におよぶ、類焼多く 37 万軒という、焼死者 2800 人余という
76	1834	3月16日	午	神田佐久間町	7.13	4,000	焼死者 4000 人		午刻神田佐久間町藤堂和泉守屋敷前屋(琴三味線師宅とも)より出火、焼死者 4000 人余、焼失町数 470-80 町余
78	1838	5月10日	午	日本橋小田原町2丁目	2.46		死者あり		午半刻日本橋小田原町2丁目長三郎店湯屋清吉宅より出火、幅 9 町、長さ 23 町という
82	1845	3月2日	午	青山権田原西丸先	4.52	900	焼失、焼死者多し		午中刻青山権田原西丸先手久須美六郎左衛門組同心伊藤専蔵宅より出火、幅 10 町、長さ 38 町焼失、焼死者多しという
84	1850	3月18日	巳	麹町5丁目	1.57		焼死者あり		巳刻麹町5丁目続き岩城屋うしろ、高田放生寺拝借地内見守番人宅より出火、幅平均 4 町、長さ 33 町を焼く
	1854	7月5日	寅	豊多摩郡淀橋	0.05		即死者あり		曉七ツ時半過豊多摩郡淀橋火薬製造所家持久兵衛預り硝子より出火爆発、二町四方に被害あり
	1854	12月24日	亥	浅草聖天町	0.09	2			亥刻浅草聖天町伝兵衛店水茶屋女むめ宅より出火、幅 1 町 25 間、長さ 5 町 20 間余を焼失
	1857	12月8日	亥	浅草福川町	0.24		死者あり		夜四ツ時過浅草福川町炭薪渡世野木屋物置より出火、幅 20 町、長さ 1 町余焼失、死者あり
87	1858	12月19日	丑	神田相生町	1.83		死者あり		丑刻神田相生町続き西丸裏門番頭若林源作宅より出火、幅 7 町、長さ 22 町を焼く、火災中旋風あり
88	1859	3月26日	丑	青山穂田	2.09	280	焼死者・負傷者多数あり		丑刻過青山穂田松平近江守屋敷より出火、幅 4 町、長さ 1 里 8 町におよぶ、焼死者・負傷者多数あり

3-5 まとめ・考察

江戸大火と焼失面積 500 坪以上の火災を比較して、出火月については冬から春に多く、夏に少ないという同じ傾向が認められた。

火災発生年は、江戸大火が 1700 年代前半に多く見られたのに対し、500 坪以上の火災は幕末にかなり多くなっており、異なる傾向がみられた。

出火時刻は江戸大火が昼間に多く、500 坪以上の火災では深夜に多くなっている。夜間は火の取り締まりが厳しいことと、放火発生時刻は深夜であることが多いこと、幕末の動乱期に 500 坪以上の火災が多いことから、500 坪以上の深夜の火災の原因は放火が多いことが考えられる。また、冬から春の乾燥した強風の日に、大火も 500 坪以上の火災も多く発生しているが、大火については昼間に火災が多いため、大火以外も含む火災の発生は乾燥して風の強い日に多いが、建物が密集した昼間の町人地では特に火元が多く存在し、特に大火につながる危険性が大きいことが考えられる。

参考文献

西田幸夫, 江戸東京の火災に関する研究, 2002 年

山川健次郎, 東京府下火災録, 理科會粹第三帙第二冊 東京氣象篇 pp.99~114, 東京大学, 1881 年

東京市, 東京市史稿變災篇 4・5, 1917 年

吉原健一郎, 江戸災害年表, 江戸町人の研究第五巻 pp.437~565, 吉川弘文館, 1978 年

第4章 江戸大火のうち焼失範囲を明らかにした大火

4-1 方法

事例として、89件の大火のうち表-9に示す大火5件について焼失範囲を特定した。

No. 73 および No. 88 は出火場所から焼失最遠点までが江戸城の西方で、武家地の多い地域であるのに対し、No. 78, No. 85, No. 87 は出火場所から焼失最遠点までが、日本橋や神田等の江戸城の東側の町人地を中心とする地域となっている。

表-9 焼失範囲を特定した大火

No.	旧暦 ※1	新暦 ※1	出火場所 → 焼失最遠点 ※2	焼失直距離 ※2 (km)
73	文政6年12月25日	1824年1月24日	麴町3丁目→赤坂	1.7
78	天保9年4月17日	1838年5月10日	日本橋小田原町→内神田	1.6
85	安政2年3月1日	1855年4月17日	小網町→浅草蔵前	1.6
87	安政5年12月15日	1859年1月18日	神田相生町→京橋	2.3
88	安政6年2月22日	1859年3月26日	青山→音羽町1丁目	6.0

※1 火災録による情報で、新暦は、紀元年新暦を西暦に変換した

※2 焼失直距離は火災録の情報で、出火場所と焼失最遠点は、市史稿の年ごとの見出しにおける火災の情報である

次の4つの地図を使用し、市史稿に記載された文献より大火の焼失範囲を特定した。

- ①人文社編集部編, 切絵図・現代図で歩く持ち歩き江戸東京散歩, 人文社, 2006年
- ②人文社編集部編, 切絵図・現代図で歩く江戸東京散歩, 人文社, 2009年
- ③東京市史稿 市街篇 附録, 御府内沿革所 第一編～第三編, 1940年
- ④東京市, 明治12年修正東京全図, 1897年

①と②は1850～1860年頃の尾張屋（金鱗堂）板・江戸切絵図を元に、人文社によって新たに描き起こされた30パターンの切絵図と、その切絵図の場所に対応した範囲に対応して、2003年の国土地理院の地図を切り出されたものが左右のページで対応した本である。

③は東京市史稿の付録で、場所ごとに、年代別に描かれた詳細な江戸時代の地図である。

①②③ともに、町人地は地名のみの表記である。

焼失範囲を特定するために、市史稿で焼失した地名・人名等が記載された文献を主に、地名・武家屋敷・橋・広小路などから場所を①②の地図で特定した。人名が見つからないものは、③の地図で最も近い時代のものを用いて場所を特定した。①②③の地図に人名が書かれた武家地のうち、連続した敷地であつ文献で連続した名字が一致した場合は、その場所を文献の名字の者の敷地と判断した。

次にMapInfoを用いて明治12年の地図⁹⁾に落とし込み、焼失範囲と焼失直距離を算出した。

焼失範囲を示すラインの外側（焼失しなかった側）の用途で焼止り線を分類した。焼止った場所が火除地である広小路の場合は空地（火除地）に、道路で焼止った場合は、焼失範囲からみて道路の外側の用途によって、空地（堀など）、農地、武家地、町人地に分類した。

切絵図や市史稿の付録の地図に人名が書かれている場所、神社仏閣や教育関係、火薬庫、牢屋、蔵などの施設は武家地に、農家は農地に分類した。

焼失範囲に道路や堀を含む場合は、焼失範囲に含まれる町名または人名が書かれた（武家地）の間隔が堀や道路などをはさんで概ね50m以内の場合は、焼失面積に含めた。

焼失範囲が不明瞭な場合は、焼失したことが明らかである場所に囲まれている場合、町人地及び大名屋敷を除く武家地である場合は焼失範囲に含めた。

詳細な記載がない農地で、建物が連続しないことが明らかである場所は、飛び火した先の焼失した地域まで、焼失幅を50mとした。(No. 88)

4-2 焼失範囲の状況

MapInfo を用いて焼失範囲を特定した 5 件の江戸大火について、見直し後の情報と火災録と市史稿の情報との比較を表-10 に示す。

また、5 件の事例の焼失範囲の状況を表した地図を、それぞれ図-14～図-18 に示す。

表-10 焼失範囲を特定した大火^{※1}

No.	旧暦	新暦	出火場所 → 焼失最遠点 ^{※2}	焼失直距離 km
73	文政 6 年 12 月 25 日	1824 年 1 月 24 日	麴町 3 丁目 → 赤坂 8 丁目 (麴町 3 丁目 → 赤坂)	2.1 (1.7)
78	天保 9 年 4 月 17 日	1838 年 5 月 10 日	日本橋本町 1 丁目 → 神田神保町 3 丁目 (日本橋小田原町 → 内神田)	1.8 (1.6)
85	安政 2 年 3 月 1 日	1855 年 4 月 17 日	日本橋小網町 → 柳橋 2 丁目 (小網町 → 浅草蔵前)	1.7 (1.6)
87	安政 5 年 11 月 15 日 (安政 5 年 12 月 15 日)	1858 年 12 月 19 日 (1859 年 1 月 18 日)	神田相生町 → 京橋 2 丁目 (神田相生町 → 京橋)	2.8 (2.3)
88	安政 6 年 2 月 22 日	1859 年 3 月 26 日	神宮前 3 丁目 → 音羽 2 丁目 (青山 → 音羽町 1 丁目)	6.1 (6.0)

※1 2 段の上段は今回確認した情報で、下段の()内は火災録による

上下段に分かれていない年月日は本研究における見直しでの変更はない

※2 今回確認した出火場所と焼失最遠点は、現在の地名で表記した

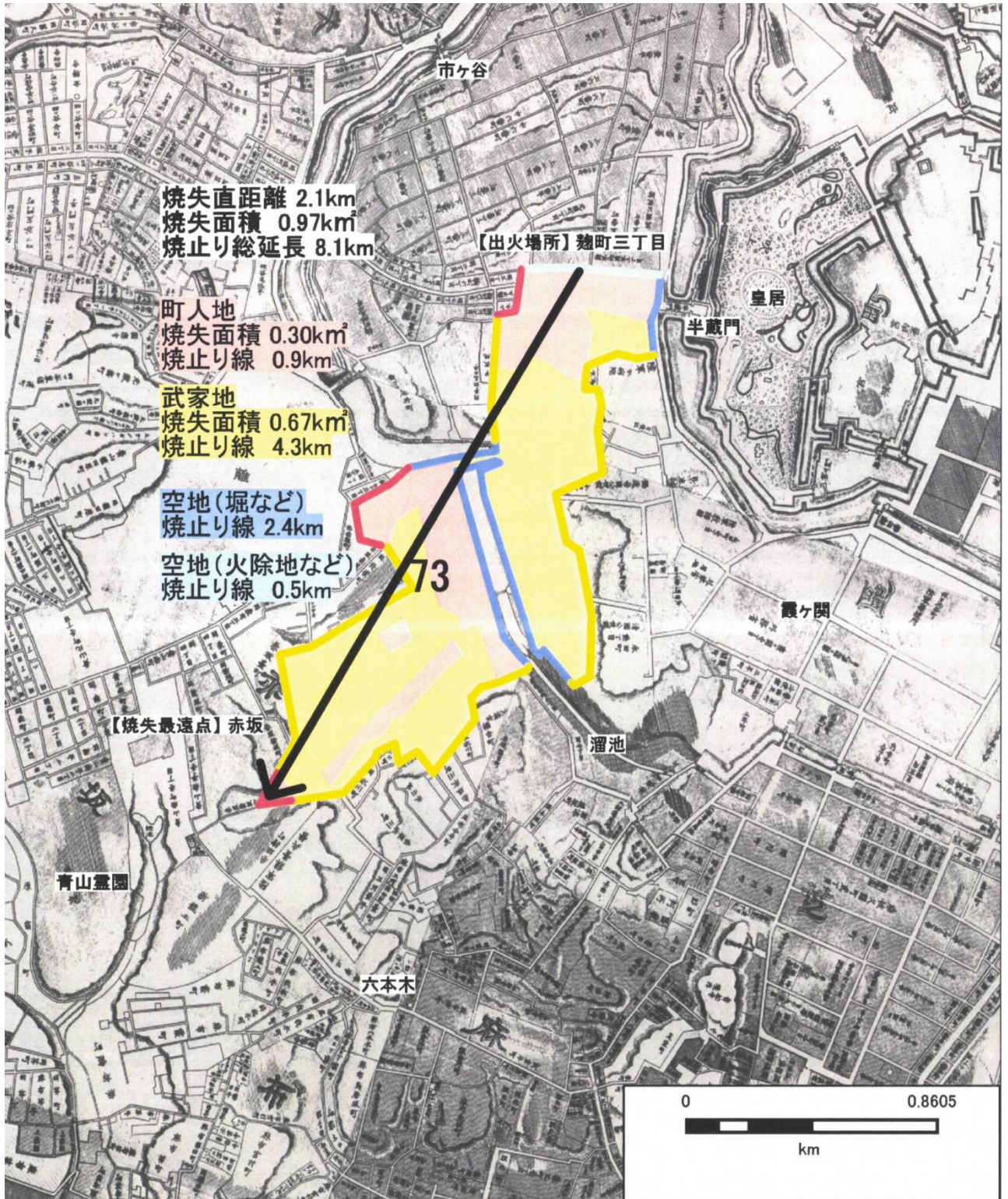


図-14 No.73の焼失範囲の詳細

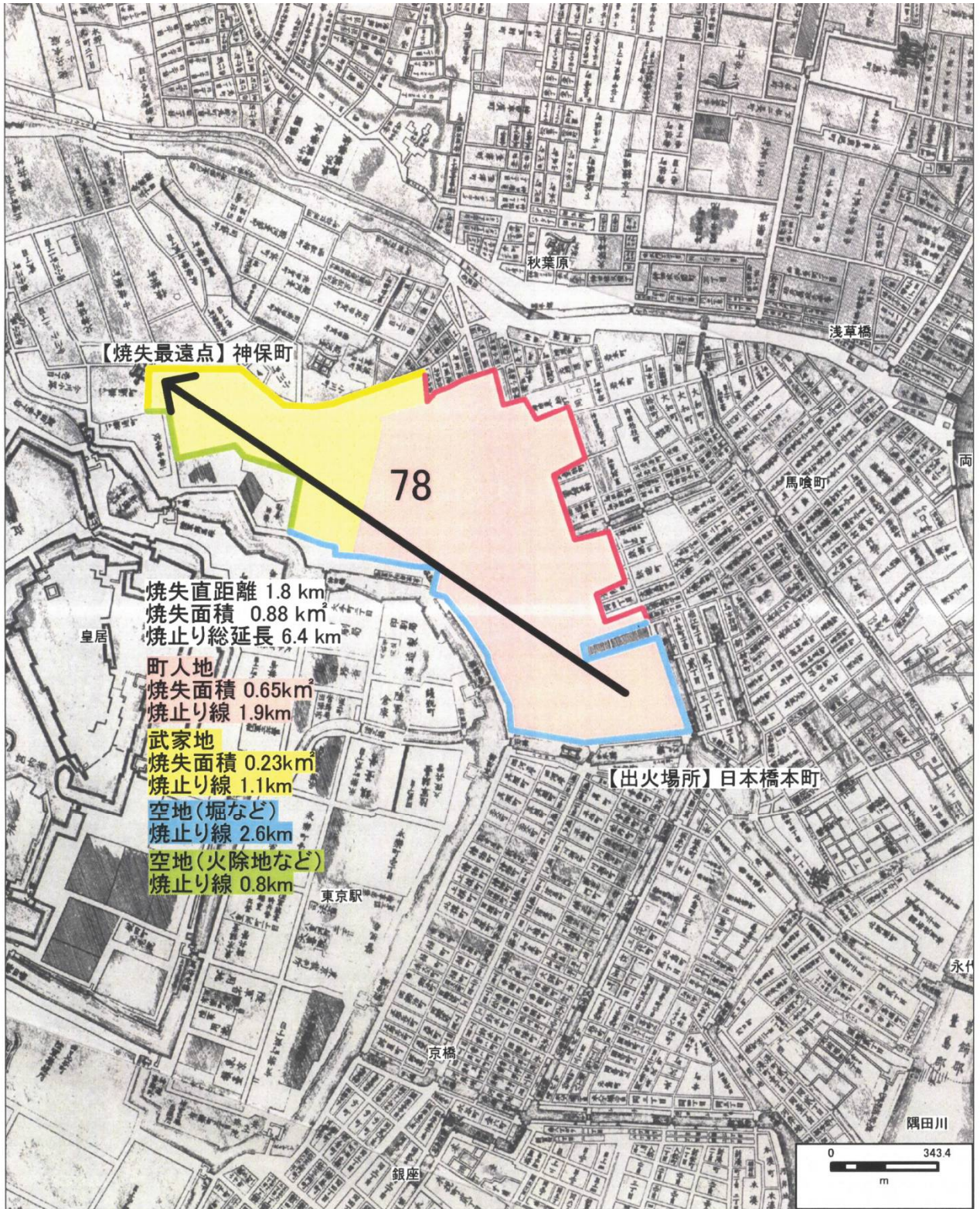


図-15 No.78 の焼失範囲の詳細

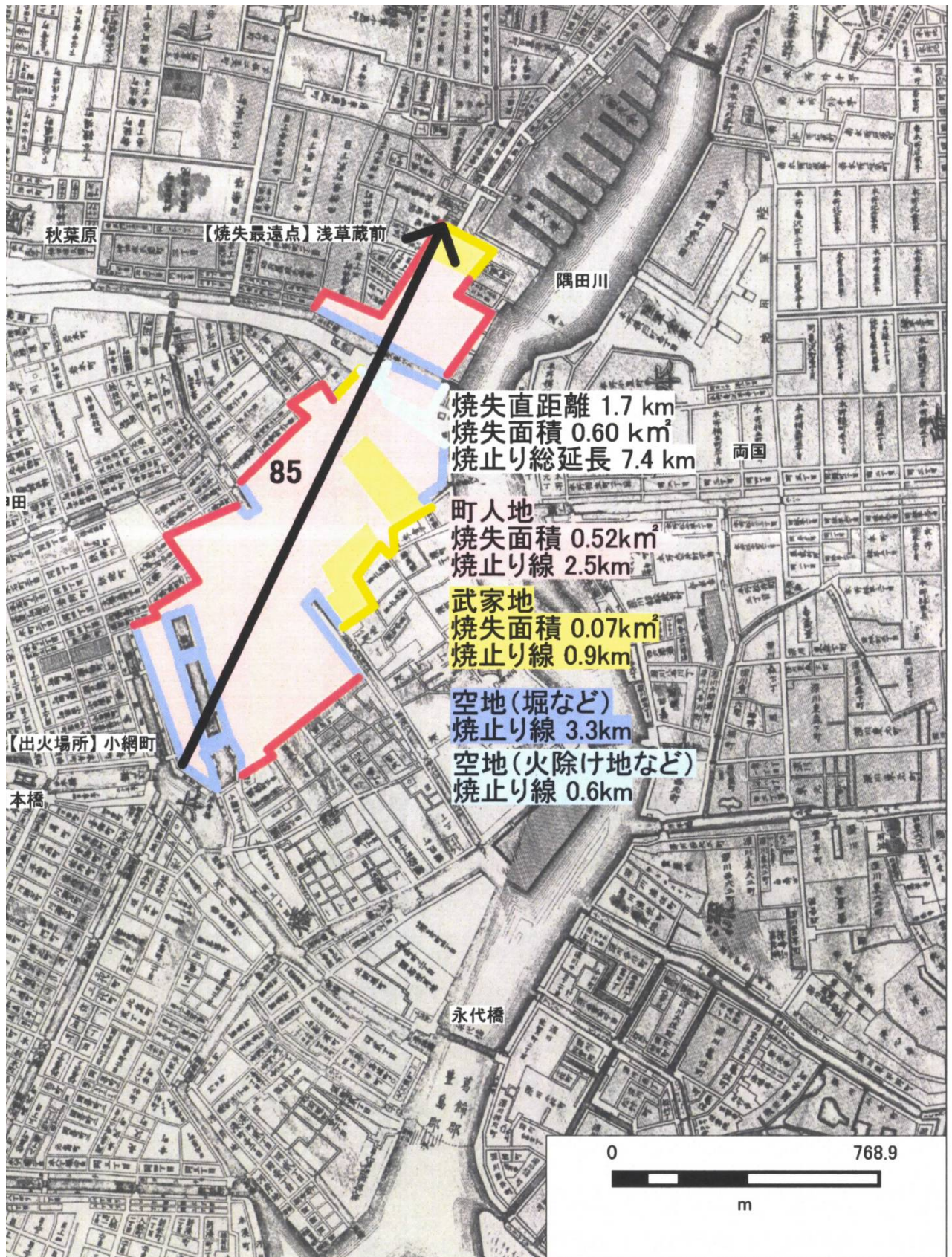


図-16 No.85の焼失範囲の詳細



図-17 No.87 の焼失範囲の詳細

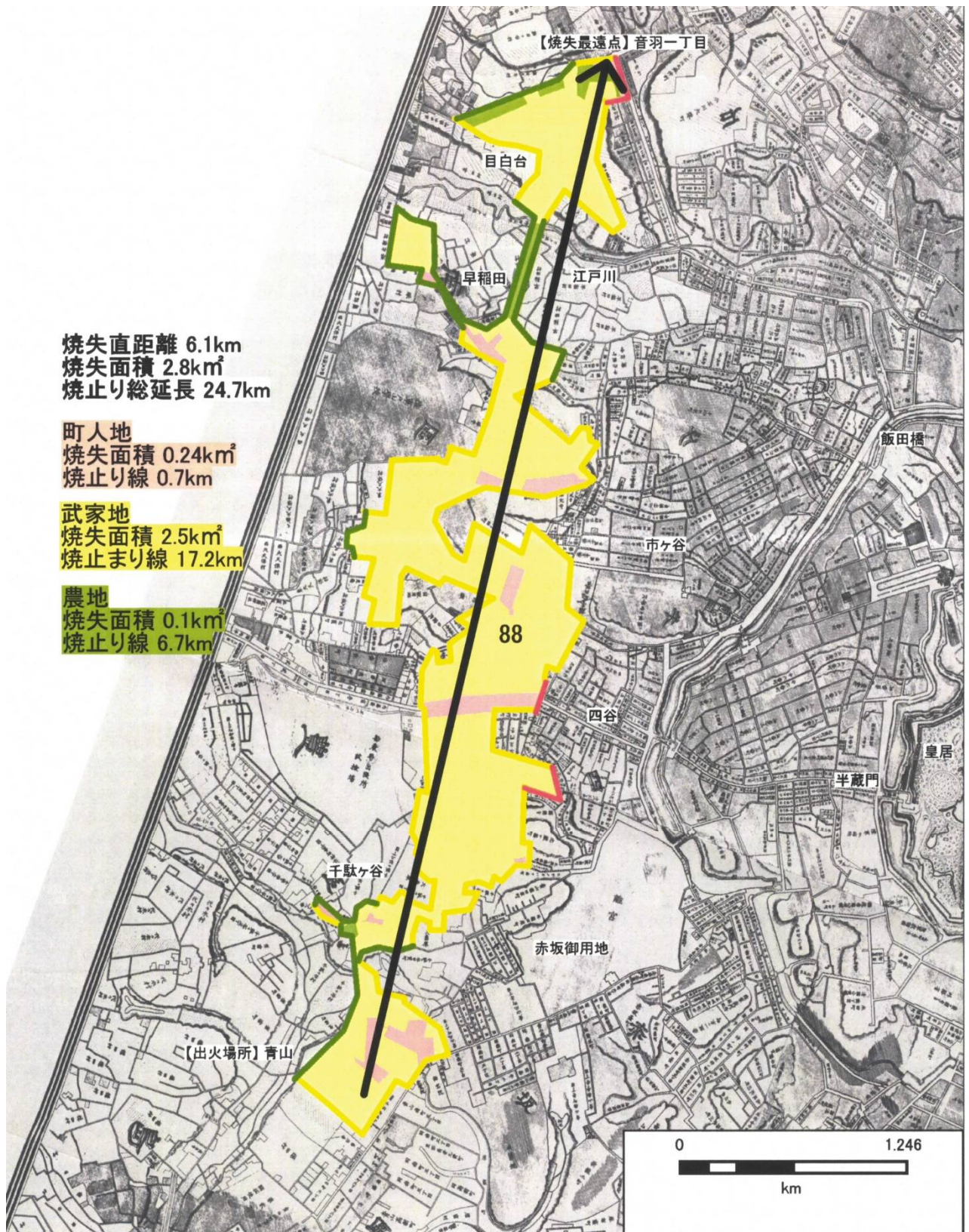


図-18 No.88 の焼失範囲の詳細

4-3 焼失面積と焼止り延長線

MapInfoにて算出した焼失直距離、焼失面積、焼止り線の状況を表-11にまとめた。今回算出した焼失面積を既往研究による算出値と、焼失直距離を火災録の情報と比較した(表-12)。また、焼失面積と焼止り線の状況の割合を図-19に示す。

町人地は焼失面積の割合に対して焼止り線の割合が30~40%になっているが、武家地は焼失面積の割合と焼止り線の割合は差異の大きいものでも65%の差異で、焼失面積と焼止り線の距離が概ね対応している。町人地の焼失面積の割合が大きい火災では、空地、特に堀や川での焼止り線の割合が大きくなっている。

表-11 焼失範囲を算出した結果

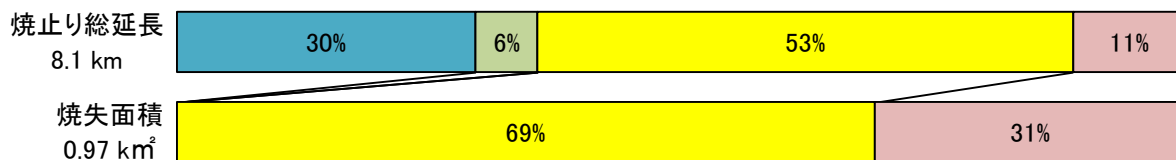
No.	焼失直距離(km)	焼失面積(k m ²)				焼止り線(km)					
		総計	農地	武家地	町人地	総計	空地：堀など	空地：火除地など	農地	武家地	町人地
73	2.1	0.97	0	0.67	0.30	8.1	2.4	0.5	0	4.3	0.9
78	1.8	0.88	0	0.23	0.65	6.4	2.6	0.8	0	1.1	1.9
85	1.7	0.60	0	0.07	0.55	6.3	2.3	0.6	0	0.9	2.5
87	2.8	1.98	0	0.22	1.76	13.3	7	0.4	0	1.6	4.3
88	6.1	2.80	0.09	2.46	0.24	24.7	0	0	6.7	17.2	0.7

表-12 焼失範囲を算出した結果と既往データの比較

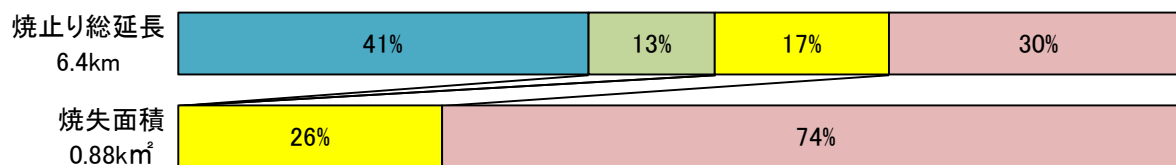
No.	焼失面積(k m ²)		焼失直距離(km)	
	本研究による算出値	西田による算出値	本研究による算出値	火災録の情報
73	0.97	—	2.1	1.7
78	0.88	2.46	1.8	1.6
85	0.60	0.62	1.7	1.6
87	1.98	1.83	2.8	2.3
88	2.80	2.09	6.1	6.0



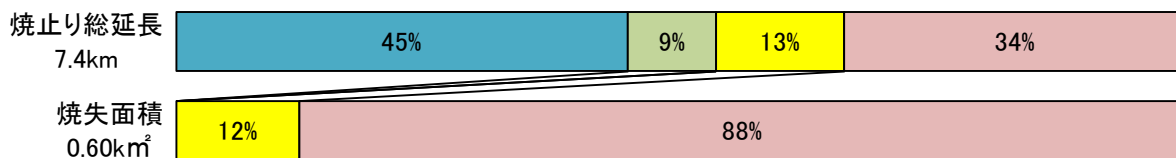
焼止り線と焼失面積の凡例



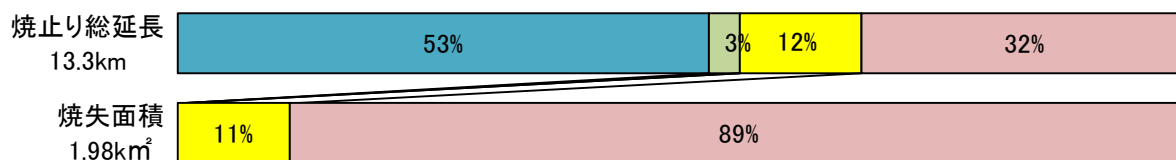
大火 No.73



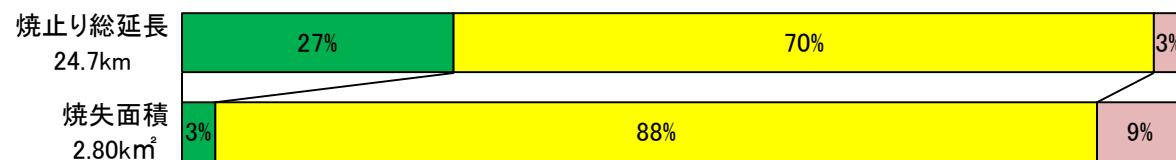
大火 No.78



大火 No.85



大火 No.87



大火 No.88

図-19 焼止り線と焼失面積の用途別割合

4-4 まとめ・考察

焼失範囲を明らかにすることにより、焼止りの状況を明らかにすることができた。

町人地では、堀や川が焼止りである割合が大きいが、No. 85 と No. 87 では、堀や川を越えた場所で焼失範囲の幅が小さくなり、No. 78 は武家地に入る所で焼失範囲の幅が小さくなり焼止っている。No. 73 では赤坂見附で橋を越えた地域が町人地であったため、焼失範囲の幅が広がったと考えられる。

江戸城の西側で発生した No. 88 の江戸大火は、武家地や田畑が多く、比較的建物の密集地ではないにもかかわらず広範囲が焼失している。武家地だけでなく、田畑の多い地域においても飛び火の記載が見られる。焼失範囲が焼失直距離の割に比較的幅が小さくなっており、かなりの強風であったと考えられる。また、この焼失範囲は江戸城に向かう方向ではなく、堀や火除地が存在していない。早稲田と目白の境の神田川は、①②④の地図（4-1 方法）を見ると、江戸城を囲む堀や隅田川、日本橋辺りでの日本橋川よりも、川幅がかなり小さい。もし、ある程度の規模の川や堀、火除け地など、東西に長い空地が千駄ヶ谷などの比較的密集した武家地に存在すれば、被害が小さくなった可能性がある。

5 件の江戸大火の事例より、堀や川、火除地は延焼を止めることができない場合でも、延焼の勢いを抑えることができたと考えられる。

今回算出した焼失直距離をみると文献の数値よりも大きくなった。手書きであるための誤差と地図の精度等による誤差、地名以外の記載がない場合は町名の範囲の広さにより、誤差が生じたと考えられる。

焼失面積は西田による算出した数値と比較して、No. 85 と No. 87 はほぼ同じであり、No. 78 で約 3 分の 1 程度に小さくなり、No. 88 で約 1.5 倍大きくなっている。No. 78 は町割の細かい町人地であるため、西田の計算で割高に算出され、No. 88 は武家地と田畑の割合が多いため町数が少なく、過少に算出されたことが原因と考えられる。

参考文献

西田幸夫、江戸東京の火災に関する研究、2002 年

山川健次郎、東京府下火災録、理科會粹第三帙第二冊 東京氣象篇 pp.99～114、東京大学、1881 年

東京市、東京市史稿變災篇 4・5、1917 年

人文社編集部編、切絵図・現代図で歩く持ち歩き江戸東京散歩、人文社、2006 年

人文社編集部編、切絵図・現代図で歩く 江戸東京散歩、人文社、2009 年

東京市史稿 市街篇 附録、御府内沿革所 第一編～第三編、1940 年

東京市、明治 12 年修正東京全図、1897 年

第5章 まとめ

本研究でまとめた江戸大火 89 件と西田による 500 坪以上の火災を比較して、以下の知見を得た。

火災発生月は 3 月で変わらない。江戸大火に限らず、冬から春の乾燥と北～西からの強風が、火災の要因であると考えられる。

江戸大火は 1700 年代前半に、500 坪以上の火災は 1851 年以降に多発している。出火時刻については、江戸大火は昼間、500 坪火災は深夜に多くなっている。500 坪以上の火災では幕末に多く発生しており、深夜の出火が多いため放火が多いことが考えられる。

とりわけ死者の多い火災は、武家地が多い江戸城の西側よりも、人口密集地、つまり建物の密集地である町人地の割合が多い東側での出火と焼失が多くなっているが、町人地は建物の密集地であるため火元も可燃物も多い。夜間は火元の管理が徹底されているが昼間は活動時間であり、特に人口密集地での火元の絶対数が多いことが昼間の出火が大火につながる一因であると考えられる。

MapInfo を用いて焼失範囲の状況を確認し、比較的江戸時代の地名と道路を反映している明治 12 年の地図上で視覚化した。焼失範囲と焼止り線の状況を明確にした 5 件の事例から、特に建物の密集地である町人地での堀や火除地などの空地の重要性が示唆された。人名の記載された場所は武家地と分類したが、小規模な武家屋敷を町人地に分類すれば、さらに建物の密集地とそうではない地域での焼失面積と焼止り線の状況の差異などを明らかに、また、多くの事例を分析することにより、密集の程度と、川や堀、火除地などの空地のサイズによって、どの程度延焼しやすいか、あるいは抑えられたか明らかにできる可能性がある。

江戸大火No.	500坪以上の火災	通称	和暦 見直し後 (火災録)	月/日 見直し後 (火災録)	西暦 年/月/日 見直し後 (火災録)	風向 (→は風向変化)	風向	出火場所から 最遠に引いた 矢印の方向	距離 (町)	距離 (km)	出火町名 アラビア数字は丁目を表わす	出火場所 アラビア数字は丁目を表わす	主な焼失地域 最後の数字は焼失した町数	焼止町名 アラビア数字は丁目を表わす	焼止場所 アラビア数字は丁目を表わす	出火時刻 赤字をデータとして使用 文献略称なしのものは市史 稿の見出し、下線はその他 文献による	収束時刻 赤字をデータとして使用 文献略称なしのものは市史 稿の見出し、下線はその他 文献による	焼失範囲 の幅	焼失範囲 の長さ	面積	人数 -は人数が 不明	死者等の記述 [市史稿中の文献]	江戸大火No.	文献 (死者等の記述以外では、 文献を、省略名称で表わ し、この欄における、前が省 略名称で、:の後ろが文献 名)
1	1-3 で1件	明暦の大 火	明暦3	1/18	1657/3/2	む、明、備:北西 細:乾→西→1/19未刻に北	北	北西	48	5.2	本郷丸山(明:本郷6)	本妙寺	本郷筋・神田東本願寺・本町 横山町・向島・堂岸寺	北柳原、南京橋、東佃島及び深川牛島 新田(明:堂殿寺・・・木挽町)	明、伊、元:未刻 む:未の刻におしうつる時分 に後:ハツ時前	明:19日4時分、向町筋まで 伊:丑刻						1	殿:殿中日記 後:後見草	
2			明暦3	1/19	1657/3/3	明:北西 む:西の刻(18時)より北が西に	北	北	53	5.8	小石川底匠町(新底匠町、小石 川筋)		本丸・二の丸・三の丸・天守 閣・神田橋門・常盤橋門・具 橋門・数寄屋橋門・鍛冶橋門 厩:道程22里8町、両町500町	江戸城本丸二三丸(向町筋 む:鉄砲津	明:午上刻 暮:午元:午中刻 む:巳伊達:巳上刻	明:午下刻御天守、申上刻 西丸 む:酉刻(海辺=鉄砲津?)				107006	10万2000余人 [明暦日録][上杉年譜]3万7000余人 [明暦炎上記]5-60000人(1) [細川家記續編]町人計3万7200余人 [中色世紀秘説]10万7006人 [むさしあふみ]10万2100余人 [武江年表]10万7046人	2	上:上杉年譜 明:明暦日録 層:明暦炎上記 伊:伊達治家記録	
3			明暦3	1/19	1657/3/3	む:西風激しく・・・俄に北風と 丑の刻 かぜおだやかにゆるく	北	北	40	4.4	麹町5			芝浦(百間蔵、御花畑/畑・丸二丸? む:芝口3海手)	夜 むさしあふみ:申 細:未刻 23はほとんど同じ時刻と記載 されている	む:増上寺・・・夜の丑刻ばかり にことごとく炎上せり・・・ 20日の辰刻まで昼夜4日間の 大火事							3	元:元延實録 細:細川家記續編 慶:慶長万萬治覚書
4			萬治3	1/14	1660/2/24	櫻:北	北	北	16	1.7	湯島天神大門前	大門前大御番森川 矢左衛門宅	殿:町数 119町	八丁堀(殿:和泉橋・箱崎橋)	年:巳刻 殿:巳下刻 慶:午刻 政:午下刻 曾:辰9時 西田先生:寅	慶:亥刻 曾:夜5時過	22	柳18町	柳:58町	95	焼死亦少なからず [殿中日記][年代炎上鑑]80人と15人、 無縁之輩70余人 回向院弔	4	秘:中色世紀秘説 曾:曾堂日記	
5			寛文1	1/20 (1/27)	1661/2/19 (1661/2/26)	柳、人:北西	北西	北	33	3.6	元鷹匠町(小石川)	書院番日下部定久 宅(柳:殿:日下部 權太夫)	御中間町・御弓町(鍛冶橋門) 殿:柳:町数 41町	京橋(京橋4丁目(申)・本郷4丁目谷 町・森崎津(戌))	巳刻 柳:巳後刻 殿:曾:巳下刻 柳:巳刻	柳:夜半まで 殿:辰刻鉄砲津 人:申刻火消	24			0	なし	5	年:年代炎上鑑 柳:柳營日記	
6	6-8 で1件		寛文8	2/1	1668/3/13	北西	北西	北西	46	5.0	牛込別(野の下に土) 榎町	酒井忠直修理大夫 下屋敷(牛込酒井 忠直下屋敷家来阿 部傳太郎宅)	市ヶ谷・麹町(番町筋・麹町1- 6・平川天神・桜田筋・愛宕山・ 土器町筋) (市谷門・虎口門)(中:桜田 御殿御預焼)	芝海辺(柳:保科肥後守芝屋敷海際、 又神田より日本橋まで)	増上寺海手	殿:柳:未刻 甲、慶延:午刻 元:午上刻	柳:寅下刻 慶延:子下刻	28			0	なし	6	慶延:慶延略記 武:武江年表
7			寛文8	2/1	1668/3/13	北西	北西	北西	21	2.3	元吉祥寺前(本郷区)	殿:お茶の水 元:小石川伝通院 寺中		神田・日本橋	柳:日本橋まで	殿:上と同刻 元:未刻 柳、甲:申刻 寛文:牛込の火前後	柳:寅下刻?	28			0	なし	7	寛文:寛文延寶略日記
8			寛文8	2/4	1668/3/16	北	北	北	43	4.7	四谷(殿:四谷伊賀町)(四谷の御 旗町?)	殿:久保五郎兵衛 芝	青山・赤坂(麻布も出火)	三田・芝(殿:サ坊橋筋・青山宿・赤坂 辺・三田筋・大佛橋まで) 殿:土器町筋 芝	寛文:青山丹後守 殿:同日に東叡山 坂下一下谷光徳 寺寺町・浅草西福 寺・鳥越町通・本 所橋筋一/橋飛び 火→深川辺り	殿:辰後刻 元:未刻 慶延:57過	柳:酉後刻	18			0	なし	8	櫻:櫻田記 御徒:御徒方万年記 玉滴:玉滴隠見
9			寛文8	2/6	1668/3/18	北西	北西	北西	21	2.3	小日向(築地)	殿:小日向築地小 十人組小頭青木市 左衛門	小石川・牛込・飯田町・代官 町・本丸守殿(御殿御番屋半 分・柳屋町筋)	御殿御番屋(江戸城西北)	殿:酒井日向守忠 能庵敷切	柳:未上刻 殿:未後刻 慶延:未刻 御徒:87時	慶延:戌上刻	20			0	なし	9	甲:甲府日記
10			延宝4	12/7 (11/7)	1677/1/10 (1676/12/11)	玉:北西	北西	北西	17	1.9	三谷遊郭	玉:西河岸湯屋市 兵衛	浅草寺町・花川戸・山之宿	浅草寺町・花川戸・山之宿、本庄中ノ郷	玉滴:松平紀伊守 屋敷	柳:戌刻	なし	3里16町		13	[玉滴隠見]傾城焼死者13人、逐電/傾城 16人	10	天:天享吾妻鑑	
11		お七火事	天和2 (天和1)	11/28 (12/28)	1682/12/26 (1682/2/6)	北	北	北	58	6.3	河田ヶ窪	人:織多産原町最 上寺領分百姓地/ 大屋五兵衛店	四谷・赤坂(柳:市谷・四谷・赤 坂、さめが橋、青山・浅生・まみ あな、かわらけ町半分・三田ま で)	芝海岸	人:巳下刻 柳:未刻	人:戌上刻 天和笑妻集:戌下刻	20	笑: 幅1町にして 道程馬 土3里16 町		0	なし 年月日は資料によって違う(4-1P367) [久夢日記]天和元酉年11月28日 [續皇年代略記]元年11月28日 [武江年表]元年11月28日丸山本妙寺~ 本郷駒込焼亡	11	笑:天和笑妻集	
12			天和2	12/28	1683/1/25	北西	北西	北西	58	6.3	駒込大圓寺(萬:本郷之末)	大圓寺	東下谷・浅草・本所・南本郷・ 神田・日本橋(湯島・本郷・竹 町・神田・日本橋・浅草橋・本 所回向院) 笑:に詳細	本郷・神田・日本橋(御:東は日本橋江 戸橋徳孫、向町、富士谷の蔵、濱町本 庄、無縁寺より三ツ目橋まで南は堂殿 島)	無縁寺 三目橋	憲:未下刻 萬:未刻 笑:午上刻	人:夜中火消 笑:所々のほのふかけうすく 成事卯の下刻なり(翌日早 朝) 萬天:翌9日朝まで	30	無土延長 13里余 笑:幅1町 にして13 里8町	3500	[萬天日録]凡3500人余 [天和笑妻集](本郷あたり)ほそきこうじ に・・・おし合せきもたへ居て、老人女わ らべふみころさえ、おしころされ・・・数萬 の男女けふりにむせびほのうにさえら れ・・・其間半町にたたる石坂にて死け るもの200余人(p.373)	12	万:萬年記 人:人見私記 元:元禄録	
13			元禄8	2/8	1695/3/22	御:乾	北西	北	43	4.7	四谷(清水他:四谷伝馬町2・御 当代記:四谷臺町) 四谷臺町		芝海岸(柳:泉岳寺門前)		萬:午 人:未下刻 御、候:87 元:未刻	元:夜亥刻	28	御:10町 余記:1里	御:3里半 基:2里余	0	なし(67400余戸)	13	基:基量御記	
14			元禄10	10/17	1697/11/30	北	北	北	36	3.9	伝通院領大塚上/町	善心寺	小日向・水道町・牛込・新小川 町・龍慶橋川端・裏四番町・裏 四番町・三番町	土手四番町	甘:87時 古川さん、未刻	資料447p抜け	基:20町	基:1里半	0	なし	14	御:御当代記		
15		勤類/ 中堂火事	元禄11	9/6	1698/10/9	柳、増、御、後、政:南 西南?	南	南	83	9.1	南鍋町(数寄屋河岸)	御:山下町1木戸よ り北 仕立屋九左衛 門 甘:山下門外 南鍋町	大和橋・錢瓶橋之内・神田橋・ 和泉橋・駿河台・防違橋、あた し橋・神田明神下・湯島天神 下、下谷、土手切・三谷 →326町敷(御:500町敷!)	千住(柳:橋場)	甘、後、政:巳刻 御:47時 元正間記:47時 御:重中刻 國:47已前	後:子刻 窓の須佐美:亥半刻 夜87時 國:夜97時 政:翌晩丑刻	24	甘:東西 20余町 基、歴:40 町	甘:南北3 里、歴:3 里	3000	[元正間記]上野下に焼死人100人余 [歴代炎上鑑]3000人余	15	後:後中内記 甘:甘露齋	
16			元禄11	12/10	1699/1/10	松陰日記:北西	北西	北西	23	2.5	石町(柳、年:2)		八丁堀	八丁堀(鉄砲洲)	御徒:巳上刻 人:巳刻	なし	年:20町	年:2里余	1300	年:1200~1300人	16	元變:元變異記		
17			元禄12	4/4	1699/5/3	南	南	南	15	1.6	日本橋品川町	年、歴:日本橋釘店	防違門 神田橋		年:未後刻 柳:未下刻	なし	年:7-8町	年:15町	0	なし	17	中:中村雜記		
18			元禄13	2/6 (2月)	1700/3/26 (1700/4)	北西	北西	北西	40	4.4	(浅草黒鏡町)下谷屏風坂		両国橋(広小路)		柳:申上刻	なし			0	なし	18	月:月堂見聞集		
19			元禄15	2/11	1702/3/9	北	北	北	73	8.0	四谷新宿	柳:百姓家	青山・麻布	青山・麻布、品川(宿)	柳:辰下刻 御:辰47時 政:朝5時半過	柳:申刻 政:夕7時	16			0	なし	19	柳録:柳營日録	
20		水戸様火 事	元禄16	11/29	1704/1/9	天:西南→西北	南西	北西	47	5.1	小石川水戸邸	水戸邸	本郷・下谷・浅草・本所・深川 (堂殿寺) 天:砂町	本郷・下谷・浅草・本所・深川、深川(堂 殿寺) 天:砂町	元變:2万軒余、荒 涼たる野原	柳:戌上刻 中:夜87半時 政:暮6時過 柳:酉下刻 元變:酉刻	天:1日午前中 元變:1日巳上刻 柳:1日未刻	36	元變:3里 余、30町 余	元變:2里 余、3里余	2600	[中村雜記]5~600人 [天享吾妻鑑][甘露齋]両国橋広小路で 85人、水底に沈者数知れず、浅草見附ま で凡そ死人400人余 [元變異記]溺死700余人、焼死夥し、け が人700人、此時あいに死者2600 人、海へ流れでたる死骸幾百人 [月堂見聞集]両国橋あたりで6~700人 余	20	玉:玉露齋
21			宝永3	1/14	1706/2/26	北西	北西	北西	15	1.6	神田達磨町(柳)		神田見附土手・新下谷・白銀町 土手・石町通り・小佐馬町・油 町・長谷川町・高澤町・和泉 町・住吉町・元原・新材木町 一年:70余町敷	堺町・大阪町	柳:未上刻 御徒:寅刻 年:子刻	柳:翌辰下刻 年:翌15日	32			0	なし	21	人:人見私記	
22			宝永4	1/15	1707/2/17	南西	南西	南西	29	3.2	浜町	新同心町水野軍人 正忠直長屋者	数街・本所一ノ橋	数町(文、武:小梅)		武:申中刻 文:申刻	武:寅下刻	28			0	なし	22	町:町年寄記

江戸大火No.	500坪以上の火災	通称	和暦 見直し後 (火災録)	月/日 見直し後 (火災録)	西暦 年/月/日 見直し後 (火災録)	風向 (→は風向変化)	風向	出火場所から 最速に引いた 矢印の方向	距離 (町)	距離 (km)	出火町名 アラビア数字は丁目を表わす	出火場所 アラビア数字は丁目を表わす	主な焼失地域 最後の数字は焼失した町数	焼止町名 アラビア数字は丁目を表わす	焼止場所 アラビア数字は丁目を表わす	出火時刻 赤字をデータとして使用 文献略称なしのものは市史 稿の見出し、下線はその他 文献による	収束時刻 赤字をデータとして使用 文献略称なしのものは市史 稿の見出し、下線はその他 文献による	焼失範囲 の幅	焼失範囲 の長さ	面積	人数 は人数が 不明	死者等の記述 [市史稿中の文献]	江戸大火No.	文献 (死者等の記述以外では、 文献を、省略名称で表わ し、この欄における前が省 略名称で、:の後ろが文献 名)
23			宝永7	12/19	1711/2/6	天:北西 月:北→西	北西	北西	25	2.7	柳原	紺屋町・小伝馬町・小網町・伊勢町・北八丁堀	雲殿島(天:永代橋)		基:未下刻 柳:未下刻 14 伊達:月:未刻	基:伊達:亥刻 月:迎刻 22	基:8・9町	基:35・36町		0	なし	23	土:土屋筆記	
24			正徳1	1/4	1711/2/20	北西 天:乾	北西	北西	15	1.6	土器町(四ツ辻)	三田町通・東芝3・新堀・芝筋	新堀・東芝魚店、南海岸		御徒:未下刻 基:未半刻 14 万:申刻 政:申刻前 月:7ツ時	基:申下刻	月:10町 政:3町余	月:1里 政:17町余		0	なし	24	基:基熙公記	
25			正徳1	12/11	1712/1/18	年:武:北西	北西	北西	27	2.9	神田運雀町(筋違橋内神田須田町)	神田運雀町肴店	通町・本銀町・本町・石町4・御堀端・一石橋・日本橋	雲殿島		年、万、御徒:未中刻 文:未刻 基:夕飯時 武:申刻 16	基:未半刻 文:武:亥刻		基:1里半		0	なし	25	享保元年=正徳6年
26			正徳6 (正徳6)	1/1 (12/28)	1716/1/24	北 月:北大風...少々東風に変わり	北	北	15	1.6	(呉服橋内)大名小路	本多中務大輔屋敷	鍛冶橋通・山下御門内・京橋・山下町・芝口御門外 84町敷	木挽町4		徳、万、金、政:丑刻(新年1日) 月:丑上刻 御徒:8ツ時 2	徳、金:翌日未刻 万:巳刻 政:2日巳刻 月:星7ツ時 14				0	なし	26	一:一話一言
27			享保1	1/11	1716/2/4	北 月:北西	北	北	39	4.3	湯島無縁坂	神田・本町・大伝馬・小網町・浜町・八丁堀・日本橋	雲殿島		柳、政、御徒:酉刻(過) 月:酉中刻 一:夜5ツ前 18	政:12日卯下刻 月:12日辰巳刻 30				0	なし	27	一話一言 11日の火事にて方々にて人死有之...前度々火事にも人死御座い	
28		小石川馬場の火事	享保2	1/22	1717/3/4	北 備:北西	北	北	56	6.1	小石川馬場()	出井三郎右衛門	本郷・丸山・御弓町・御茶水・水戸殿・水道橋・駿河台・小川町・猿楽町・飯田町・一ツ橋・大名小路...大坂町・堀町・深川・八丁堀・北八丁堀1-5 200余町敷	本城(江戸城)		土:申中刻 備:申上刻 基:柳録:未下刻 金:昼8時過 14	柳:夜子刻 金:翌曉 柳録:夜寅刻 候:翌朝6時頃	町:16町 万:10町余	町:1里19町 万:60町余		117	100余人 117人	28	笑:天和美笑集
29			享保2	12/28	1718/1/29	北 月:北西	北	北	54	5.9	牛込佛(手へ)方町(天龍寺前)	小普請諸屋清左衛門	市ヶ谷・表六番町・麹町・山本町・平川天神・山王・永田町・愛宕・増上寺	増上寺前芝海手		柳:基上刻 万:真中刻 御:御徒:卯刻 基:7ツ半 候:27日夜半 政:辰刻前 月:子刻過半 4	万:28日戌刻 柳:未下刻 月:夜明方 候:28日夜 14	月:1里	月:4里		0	なし	29	讀:讀談海
30			享保3	5/1	1718/5/30	月:北西	北西	北西	15	1.6	(新橋)五郎兵衛町1	最町・紺屋町・西本願寺(月:御堂は残)・稲葉町・静木町・サヤ町・スミ町・片町・八丁堀・州軒堀・木挽町	鉄砲洲・新橋(新橋見附)		柳:未後刻 柳録:未下刻 月:未上刻 御徒:未中刻 増:昼8ツ時 14	柳録:亥中刻 柳:酉上刻 月:2日辰巳刻 増:夜8ツ時 22	基:3-4町	基:30町余		0	なし	30	萬天:萬天日録	
31			享保5	3/27	1720/5/4	金:南	南	南	53	5.8	築屋町(3)	東叡山	数十町(下谷金杉2)(月:金杉町1町目切)		御徒:月:午下刻 万:未上刻 圓:未刻前 金:午上刻 政:午刻過 12	月:亥刻 万:戌下刻 金:寅刻 政:翌28日卯刻 22	月:10-15町	月:2里余		0	なし	31	[月堂見聞集]所々にて大分死申	
32			享保6	1/8	1721/2/4	北西 月:北	北西	北西	15	1.6	呉服町(1南中程裏)	築地	築地(鉄砲洲・南本郷町)		柳:巳下刻 御徒:月:巳中刻 10	柳:申中刻 月:酉下刻はまだとまらない 16	月:5-6町 月:6町半	月:1里 程:23町		0	なし	32	増:増上寺日鑑	
33			享保6	3/3 (2/3)	1721/3/30 (1721/2/28)	南西 月:南	南西	南西	38	4.1	神田三河町4	下谷・浅草 政:70町敷	下谷・浅草、千住(橋) (橋場總泉寺)	14万1300戸余/6回		柳:圓:巳刻 天:巳中刻 月:巳下刻 政:辰下刻 政:午刻 續:9ツ時 10	月:夜9ツ時 續:翌7時申下刻 24	天:15町	天:38町		2100	この年の春6回の火災の合計2100余人	33	
34			享保6	3/4 (2/4)	1721/3/31 (1721/3/1)	南西=富士南風?(續) 柳、政、月:南	南西	南西	45	4.9	牛込佛方町	柳:牛込木津屋町	筆筒町・赤城・白山・水川・大塚・小石川・本郷・千駄木・駒込・谷中	小石川・本郷・道灌山		柳、政、御徒:辰下刻 月:巳下刻 金:巳刻 續:4ツ8時 12	柳、金:申下刻 月:辰7ツ時分 續:6ツ時 16				300	300余人 [月堂見聞集]伝通院寺内死者数百人 其外...	34	
35			享保6	12/10	1722/1/26	北 柳録、土:北西	北	北	30	3.3	(神田)永富町	築地	築地		享:午刻 柳録:午中刻 土:8ツ時 月:星9ツ過 12	享:虫刻(築地)、夜(本所・深川) 柳録:申中刻 16				10	[土屋筆記]10余人	35		
36			享保7	1/21	1722/3/5	北西 柳録:北	北西	北西	16	1.7	小石川鎮差町	御台所町・小川町・飯田町	御台所町・田安門外(雉子橋外)		柳、金、年:酉刻 柳録:酉刻過 御徒:酉中刻 承:暮6ツ時 18	柳録、承、金、年:夜子刻 24	3-5町	25-26町		0	なし	36		
37			享保7	2/5	1722/3/21	年:南西	南西	南西	30	3.3	一番町御堀端	松平基四郎屋敷	小川町・本郷元町・猿楽町	御弓町・大雨		月・柳:巳刻 續:朝5ツ半時 年、金:辰下刻 10	柳:午下刻 金:午刻 續:星9ツ時 月:未刻(大雨) 年:亥刻前(大雨) 14	12			0	なし	37	侯:侯爵浅野家回答
38			享保8	2/16	1723/3/22	月:北西	北西	北西	15	1.6	赤坂伝馬町2	麻布・飯倉・三田・白銀	麻布・飯倉・三田・白銀、芝海手		侯、候:迎刻過 6	候:未刻 14	月:7町	月:1里半		0	なし	38		
39			享保8	12/5 (10/25) 市史編刊用紙文	1723/12/31 (1723/11/25)	月:北 年:西北→西→北	北	北	15	1.6	牛込天神町	赤城明神下西天神町神尾左兵衛組屋敷	一番町堀端		柳・年:未刻 14	柳:酉刻 月:6ツ時 年:暮前 18				0	なし	39		
40			享保9	1/30 (3月)	1724/2/24 (1724/4)	北	北	北	51	5.6	山下門外加賀町(本郷)	木挽町芝居(芝口御門・浜御殿茶屋・御船蔵など)	芝口海手(芝口門・御浜御門)		2/17 月:西北、未刻、新寺町阿部川町一本所番や橋(2里半程) 柳:午刻 月:9ツ時 12	なし				0	なし	40		
41			享保9	閏4/5	1724/5/27	南西	南西	南西	17	1.9	小日向茗荷谷	万:徳恩寺	万:松平大学之宅	異鴨		柳:未刻過 14	なし				0	なし	41	承:承寛権録
42			享保10	2/14	1725/3/28	柳、金:南西 土、承:南	南西	南西	80	8.7	青山久保町	柳:千駄ヶ谷・権田原・敷ヶ橋寺町・四谷大番町・大木戸原町・四谷神町噴道外・四谷御門外・本郷市ヶ谷田町3まで、市谷八幡町・加賀屋敷・大久保・川田方座・原町・山伏町・高田下町・早稲田・大塚音羽町・牛込・小日向・赤城・津久戸・伝通院前・水戸上屋敷・牛天神・鎮差町・丸山・小石川・白山・本郷通分・駒込・谷中まで	谷中		月:凡屋敷方敷6000件程 柳:未刻 月:午刻 金:午半刻 承:9ツ半時過 12	柳:戌刻 土:夜4ツ時 承:夜未明 金:夜 22	月:20町	月:3里程		0	なし	42	伊:伊達治家記録	
43			享保12	12/10	1728/1/20	月:北 通:北西	北	北	41	4.5	表二番町	柳:久保伊右衛門	芝(柳:芝神明前海手)		柳、伊:申刻 増:通:虫中刻 月:7ツ半過 候:夕7ツ時分頃 18	柳:夜半頃 増:夜子刻 月:9ツ半過 通:丑下刻 24	伊:5・2町	伊:18・17町 月:1里余		0	なし	43	柳:柳替日記記 瀬:瀬田問答	
44			享保16	4/15	1731/5/20	柳、中、瀬:北西 月:北	北西	北西	60	6.5	目白台	柳:運部氏部少輔支配夏目五郎屋敷 月:江戸橋口秋元但重堂下屋敷向之	牛込・麹町 柳:詳細あり 月:詳細あり	牛込・麹町・芝(月:芝金杉海手)	月:牛尾	柳:午下刻 瀬:午下刻 月:午刻 候:未刻過 12	柳:夜亥刻頃 月:午刻 瀬:暮6時 22	柳:3町	柳:92町		1000	[月堂見聞集]1000人余	44	享:享保日録 通:享保通鑑
45			享保17	3/28	1732/4/22	北 享:北西 月:西→北	北	北	32	3.5	浅草(月:新寺町)	月:新道西側本通りより5軒目菊五郎御門	享:詳細あり 月:3ツ目橋通り、鐘つき本堂、北風に代わり2ツ目通り1ツ目まで、回向院うしろ、あかけ町屋、辨天、八幡旅所、寺方町より新大橋ツ目、六軒堀、大工町、豊蔵寺、深川元木場まで	異鴨(月:豊蔵寺、深川元木場)		享:昼前 月:3/289ツ前 =3/27? 12	月:夜5ツ時 20	月:10・10町	月:20+20町		0	なし	45	政:政郷記
46			享保17	3/28	1732/4/22	北西	北西	北西	25	2.7	西丸下	御用屋敷裏	享:詳細あり 月:敷寄屋川岸1、山下町、筑堤町、さん木町、森山町、内山町、家表町にて焼けどまり	本所、牛込、小石川、櫻田、芝等(享:稲葉佐渡守浜屋敷)		享:未下刻 月:星9ツ半時 申上刻 14	なし	月:2・1町	月:13+8町		250	[月堂見聞集]浅草出羽守殿堀端で凡250人死人在、外数知れず	46	二:二條家番所日記記
47			元文2	5/3	1737/6/1	續:南 年:南西	南	南	30	3.3	下谷相生町(年:筋違橋外神田佐久間町)	柳原佐久間町の堀	寛永寺本坊・淨園院霊牌所・慈観堂等	金杉(續:眞輪)(柳:金杉4、政:金杉3)		柳:未後刻 政、年:未刻 14	柳:戌刻 政:暮過 續:暮過 20	二:7-8町	二:1里		0	なし	47	續:續談海 續王:續日本王代一覽

江戸大火No.	500坪以上の火災	通称	和暦見直し後(火災録)	月/日見直し後(火災録)	西暦年/月/日見直し後(火災録)	風向(→は風向変化)	風向	出火場所から最遠に引いた矢印の方向	距離(町)	距離(km)	出火町名アラビア数字は丁目を表わす	出火場所アラビア数字は丁目を表わす	主な焼失地域最後の数字は焼失した町数	焼止町名アラビア数字は丁目を表わす	焼止場所アラビア数字は丁目を表わす	出火時刻赤字をデータとして使用文献略称なしのものは市史稿の見出し、下線はその他文献による	収束時刻赤字をデータとして使用文献略称なしのものは市史稿の見出し、下線はその他文献による	焼失範囲の幅	焼失範囲の長さ	面積	人数(人数が不明)	死者等の記述[市史稿中の文献]	江戸大火No.	文献(死者等の記述以外では、文献を、省略名称で表わし、この欄における前が省略名称で、の後ろが文献名)
48			延享2	2/12	1745/3/14	横:北	北	北	68	7.4	千駄谷	横:瀬川横坂守下屋敷	青山・麻布・白銀・高輪	青山・麻布・白銀・高輪等・品川まで	年:品川海岸寺手まで 政:8678軒	横:續王:午刻 政:午上刻 歴:朝五時 年:巳刻前	横:夜 歴:夜更	政:11-12町	政:3里半 歴:2里半 續王:1里半		1323	焼死する者甚だ多し [年代炎上鑑]焼死者150程 [政邸記]1323人(柳川殿右屋敷236人・松平陸奥守下屋敷398人、689人は町人職の者、他に750人計武家町共あやまち)	48	歴:歴代炎上鑑 享撰:享撰要録
49			延享3	2/29	1746/4/19	横:年:南	南	南	70	7.6	築地	坪内樓左衛門	八丁堀・小網町・堺町・葦屋通・大川端通・御原向形町・馬喰町・濱町、本所に飛び火・松井町・横綱町・石原町、3/1浅草寺中寿命院に飛び火・南北馬道町花川戸町・山之宿町・聖天町・橋場町	八丁堀・小網町・堺町・葦屋通・柳原同形町・馬喰町・濱町、本所に飛び火・松井町・横綱町・石原町、3/1浅草寺中寿命院に飛び火・南北馬道町花川戸町・山之宿町・聖天町・橋場町	横:5時半過 享撰:5時半 武:夜4時前 横:夜5時 年:續王:戌刻	横:暮方 續王:翌日夜 享撰:5時半 武:翌日夕7時 横:翌日4時(兩國橋同形町)・暮時(小塚原) 年:翌日夕方(浅草辺)	享撰:3町・1.5町	享撰:30町+9町		—	(人なども死けりといふなり)	49	玉:玉明記 親:親子草 唯:唯三才雑録	
50		大学火事	宝暦6	11/23	1756/12/14	唯:北西 金:親:北 横:北風西風	北	北西	20	2.2	麹町	八代洲河岸 林徳充邸	郭内大名小路・数寄屋町・木挽町等	築地	卯刻 翌:卯上刻 本:朝6時 町:暮:晩6時 定:寅刻 横:明7時過 唯:卯7時半	金:翌日寅刻 定:午刻? 横:暮時 唯:翌日卯7時	定:1里	定:3里		0	[定之卿記]人多損云々 ⇒ 死者なしとする	50	傳:傳法院日記 書:書福年代記ア編目	
51			宝暦6	11/23	1756/12/14	記載なし(同上)	北	北	42	4.6	青山(権田原)		麻布・芝・二本榎	二本榎(三田)	定:午刻 暦年雑記:辰刻 町:歴時前 傳:4時 壽:辰	暦年雑記:午刻 定:24日寅刻? 唯:同日暮6時迄?				0	なし	51	本:本丸廻状留	
52			宝暦10	2/4	1760/3/20	横:浅:晴:北西	北	北	43	4.7	赤坂(横:浅:金:今井谷)		麻布・六本木・芝	麻布・六本木・芝田町(横:三田田町8丁目)	金:7時過 横:晩7時前 晴:明7時	横:4時前 金:巳刻前	横:5町	横:33町		0	なし	52	定:定之卿記 晴:定晴卿記	
53		神田火事	宝暦10	2/6	1760/3/22	横:北 町:北西 後:おりから辰巳?之風一巳刻に止る	北西	北西	43	4.7	神田(旅籠町1)	足袋商売明石屋嘉兵衛	日本橋・京橋・深川 横:詳細あり、町数126町	日本橋・京橋・深川・洲崎	横:須崎弁天之社 東之方木場まで 後:南は日本橋、 北東は両国、須崎木場	浅:西の中刻 金:夜5時 横:後:辰刻 夜:6時半 壽:20 福:酉刻	浅:翌日暮 金:8日朝 横:7日戌下刻 後:巳刻 壽:44 福:8時	町:靈藏 端まで9町 深川の 方7町			—	[浅野日記]人畜の死傷少なからず	53	浅:浅野日記
54			明和8	1/22	1771/3/8	横:北 續王:北西	北	北	20	2.2	麻布烏居坂上	横:坂戸川内膳殿		高輪	金:4時半 横:4時 續王:辰刻 傳:夜8時前	横:7時半 續王:夜 傳:7時				0	[金地院記録]死人も多く有 [塵塚談]炎死多く有れば	54	金:金地院記録	
55			明和8	2/29(9月)	1771/4/13(1771/10)	傳:南 横:西南	南	南	40	4.4	村松町(横:元矢之倉村松町2北側)	池田屋茂左衛門 歴:田十郎煎餅の店	横山町・新道・橋町元矢の倉 薬研堀・米澤町・同形町柳橋・天王町・浅草蔵前瓦町・本所	橋場(横:長法寺・養白寺・横町・真崎原、歴:真先稲荷の前茶や町さわ)	本多平八郎邸 敷?真先稲荷(南千住)地蔵では小 橋あり	横:真半刻 巳時過? 柳:歴 横:明7時過 歴:晩7時	傳:午時前 横:翌9時				0	なし	55	町:町年寄手控 澤:大澤文稿續編
56		目黒行人坂	安永1	2/29	1772/4/1	柳:後、傳、備:南 横:南風つよく又西の風つよし...北風になりて	南西	南西	133	14.5	目黒行人坂	大圓寺	麻布・芝・郭内(原巳三重橋・和田倉・馬場先・日比谷・神田諸門)・日本橋・神田・本郷・下谷・浅草 北:57と併せて町数934町	麻布・芝・郭内・京橋・日本橋・神田・本郷・下谷・浅草等、千住	北:9時半 柳:午刻 上:翌晦日夜 澤:未刻より雨ふり出て、ゆふへに至りて火もつまつれり	柳:午下刻 上:翌晦日夜 澤:未刻より雨ふり出て、ゆふへに至りて火もつまつれり	後:1里余	後:6里足らず		14700	数千人 [北叟遺言]14700+行衛不明人4060	56	北:北叟遺言	
57			安永1	2/29	1772/4/1	南西	南西	南西	25	2.7	本郷丸山(菊坂)	北:道具屋与八宅	北:菊坂台町・駒込片町	駒込・谷中・根岸⇒既に焼跡?	日暮 北:暮6時前 後:亥刻						0	なし	57	後:後見草
58			安永7	2/12	1778/3/10	北西 柳:西	北西	北西	25	2.7	石町3(柳:金:新道)	年:時之鐘近所町 細あり	靈藏島・深川・田島	霊藏島・深川・田島・鉄砲洲船松町	柳:8時過 金:8時半 年:未上刻	柳:翌朝 年:卯中刻					0	なし	58	保:天保雑記
59			天明3	12/20	1784/1/12	北西	北西	北西	25	2.7	浅草鳥越表町屋	福富町・本所横綱町(武:聖川通御船蔵通、深川六間堀本誓寺・靈藏寺、浄心寺、猪入堀まで)	深川東平野町	年:深川東平野町 屋敷、政:廣徳寺辺	武:年:巳刻過 政:辰前	政:夜半	年:2町	年:40町		0	なし	59	曲:曲淵日記 天明:天明日記	
60			天明4	12/26	1785/2/5	北 武、久松、一、備、年:西北	北西	北	25	2.7	大名小路西尾忠移邸	築地(武:新橋、数寄屋橋、弓町、紺屋町、八官町、尾張町、木挽町芝居、仙台映御落邸、京橋、鉄砲洲・築地海手・西本願寺・南小田原町・源助町)	築地・芝源助町 年:芝源助町裏町屋	武:戌下刻 候:久松:夜9時 年:一:夜4時半頃	武:27日申刻@源助丁辺 天明:翌日八時半過消火 久松:27日暮7時過まで焼 一:27日暮6時過火鎮	年:8町、 14間	年:25町+50間		0	なし	60	久松:久松日記 候:侯爵浅野家回答 備:備藩邸考		
61			天明6	1/22	1786/2/20	北西	北西	北西	40	4.4	湯島天神門前	一:牡丹屋敷裏家	馬喰町・浜町・深川熊井町・相川町(神田筋通橋)一:政他に詳細あり	馬喰町・濱町一深川熊井町、相川町、八幡門前辺(一:右角)	曲:9時半頃 武:翌9時 政:辰9時過 一:午上刻	一:夜4時 武:翌23日晩 政:夜8時前	實種公記:2里		0	なし	61	一:一話一言		
62			天明6	1/23	1786/2/21	政:北 年:火、増、金:西北 火:8時半頃東北に	北西	北	16	1.7	西久保神谷町大養寺	大養寺門前(家主定八店友七宅)	中之橋・真木河岸・芝田町(新下谷町通り、土器町・飯倉・赤羽根・本芝田町) 曲:金:政:年:他詳細あり	中之橋真木河岸辺一本芝1・2	年:未上刻 金:午刻頃 火:9時過 増:9時半過 政:辰9時	年:申中刻過 増:7時 火:7時過 金:夜亥刻				0	なし	62	増:増上寺役所日鑑	
63			天明6	2/6	1786/3/5	北 年:西北	北	北	16	1.7	小石川指ヶ谷町1蓮花寺門前	年:蓮花寺表門前町屋佐野屋忠藏地借置屋長兵衛宅	本郷・丸山・湯島・金助町・聖堂・本郷竹町・春日町 年:詳細あり 中之橋 真木河岸	湯島(政:湯島23・金助町・聖堂辺・本郷竹町・春日町・水道橋辺まで)	曲:9時過 年:午上刻 金:午刻	曲:夜5時半過 政:夜5時過	金:50町程		0	なし	63	火:火除地御園込地所一件 記 横:横憲漫筆拾遺		
64			寛政4	7/21	1792/9/7	池:南西 武、御徒、政、江:南	南	南西	51	5.6	麻布(竹冠に开)橋	麹町・番町 政:他詳細あり	麹町・番町・飯田町(池:下町下谷へ修行、二丁手に從て小石川御門に止まる)	小石川御門	武:巳上刻 池:巳刻 政:4時過 江:巳午刻	池:翌辰刻 寛:黄の中刻過 政:22日朝6時 江:22日朝6時				10	[筆のすさみ]麻布の光明寺の後の岡で10余人	64	寛:寛政日記	
65			寛政5	10/25	1793/11/28	政:池:北 江:北西-西-北	北	北	28	3.1	富山城主前田利業湯島別館	富山城主前田利業湯島別館	木町通り 政:他に詳細あり	日本橋(政:日本橋河岸)	政:暮時分(下谷茅町) 池:申中刻 江:夕7時	政:26日昼9時前 池:辰刻				0	なし	65	江:江戸火災日記 金:金地院記録 金日:金地院日録	
66			寛政6	1/10	1794/2/9	侯、金日、森:北西 歴:西 金、江:北	北西	北西	31	3.4	麹町5	歴:麹町5秋田屋油屋庄兵衛 森:麹町4油屋 安:麹町5酒屋 政:麹町平川町3家主基右衛門店庄兵衛方)	四谷・赤坂・麻布・三田・外堀(幸橋門) 江:歴:森:他詳細あり	芝口新銭座辺(歴:芝口1)	安:寛:政:8時半頃 森:8時 江:9時半過 金:9時半過 歴:未中刻 池:未刻 東風録:未下刻 金日:午刻過	政:11日朝6時 池:同夜 東風録:子中刻				0	なし	66	安:安藤日記	
67			寛政9	11/22(10/22)	1798/1/8(1797/12/9)	北西 森:北	北西	北西	30	3.3	神田佐久間町	き:千鐘軒屋 武:こなや	浜町・薬研堀・大川・深川六間堀八名川町・海辺新田	浜町、深川木場(武:海辺新田・木場)	政:須崎あたり	森:朝4時半 き:歴4時 政:4時前 我尾庵隨筆:歴4時過	森:夜5時頃(両御丸?)、跡火の火勢晩頃まで吹上御番 池より見る 政:23日(夜)	政:2町	政:2里		3000	[政邸記]死人3千計	67	森:森山孝盛日記
68			寛政11	3/10(3/7)	1799/4/14(1799/4/11)	南 池:南西	南西	南	15	1.6	麻布古川新屋敷	歴:古川新屋敷 安:麻布番福寺前長屋	雑色・十番・永坂・狸穴	市兵衛町(飯倉町)	安:9時過 池:巳刻	安:8時過 池:申刻	歴:3町	歴:10町40間余		0	なし	68	き:ききのまにまに	
69		文化3	3/4	1806/4/22	1806/4/22	南西 金、政:南 傳、政:南→朝東	南	南西	81	8.8	芝車町	郭内(山下御門)数寄屋橋、本盛橋御門、大名小路・京橋・日本橋・神田・浅草 雑:他に詳細あり、き:530余	大名小路・京橋・日本橋・神田・浅草・浅草新堀	巳半刻 文:4時半過 政:4時過 金:辰半刻 増:巳刻過	5日巳刻(大雨 文) 金:傳:晩 政:5日4時	7町 雑:20町 き:7町半 政:20町	内:226万8000坪		1200	1200余人 [ききのまにまに]1250余人	69	玉:玉川砂利 文:文化日記		
70		文化6	1/1	1809/2/14	1809/2/14	南西	南西	南西	30	3.3	日本橋佐内町(1)	浜町(青物町・高砂町・両国薬研堀・矢の倉)	浜町、本所(武:本所表町 元柳橋辺)	西中刻 武:我衣:暮6時過 池:暮6時 政:夜6時半 玉:夜5時 政:5時前	武:夜9時半 我衣:9時半 政:2日晩 き:夜半	政:幅4町		3	[玉川砂利]女3人焼死	70	雑:雑事記			
71		文化8	2/11	1811/3/5	1811/3/5	政:金:北西 南北風(?)	北西	北西	45	4.9	市谷谷町	政:赤坂・鯉ヶ谷・青山・赤坂溜池・今井谷・麻布谷町・市兵衛町・西之窪・赤羽橋・増上寺	芝	文:暮7時過 金:酉刻	政:夕7時頃 政:12日晩7時前	政:13町	政:1里20町		500	[文化日記]200余人(文) [政邸記]500人計	71	傳:傳法院日記		

江戸大火 No.	500坪以上の火災	通称	和暦見直し後(火災録)	月/日見直し後(火災録)	西暦年/月/日見直し後(火災録)	風向(→は風向変化)	風向	出火場所から最遠に引いた矢印の方向	距離(町)	距離(km)	出火町名アラビア数字は丁目を表わす	出火場所アラビア数字は丁目を表わす	主な焼失地域最後の数字は焼失した町数	焼止町名アラビア数字は丁目を表わす	焼止場所アラビア数字は丁目を表わす	出火時刻赤字をデータとして使用文献略称なしのものは市史稿による。下線は市史稿による	収束時刻赤字をデータとして使用文献略称なしのものは市史稿の見出し。下線は市史稿による	焼失範囲の幅	焼失範囲の長さ	面積	人数-は人数が不明	死者等の記述[市史稿中の文献]	江戸大火 No.	文献(死者等の記述以外では、文献名、省略名称で表わし、この欄における前が省略名称で、:の後ろが文献名)		
72			文政1	10/17	1818/11/15	武:北西	北西	北西	33	3.6	浅草寺中法善院	地中法善院	花川戸・中の郷松浦候中屋敷・吉田町・吉岡町・三丁目・四丁目(傳:本所・深川・中ノ郷・猿江等)	深川(猿江)((傳:本所・深川・中ノ郷・猿江等)傳:武・妙村)		金:8時 傳:武:8時半 文政:申刻	14	文政:翌朝 金:夜4時頃(深川辺)	22	武:1里余	0	なし	72	甲:甲子夜話		
73			文政6	12/25	1824/1/24	北武:池、雑議:北西	北	北	16	1.7	麴町3(北:)		永田馬場・狸穴・赤坂閑餘雑記:詳細あり(〜新店4両側・今井谷・青山掃除町片側1町程)	赤坂(武:田町4)	池:赤坂河岸5まで、西は薩州中屋敷跡まで 雑議:黒嶽谷残らず、一ツ木町・シン町他	夜中刻(池) 俵:夜4時 柳:4時半前 雑議:夜4時	22	巳刻 池:26日午刻	34		-	[甲子夜話]人々少カクナシ焼亡	73	内:内瀧状留 本:本丸瀧状留 脇:脇坂家譜		
74			文政12	3/21	1829/4/24	俵、甲續:西北武、脇:北	北西	北西	35	3.8	神田佐久間町河岸(武:神田佐久間町2河岸)	武:材木小屋	日本橋・京橋多数詳細資料ありp.373-482 p.375に地図あり 薪の燗:692町敷	日本橋・京橋・芝		本:4時半 俵:朝4時半 武:巳刻 薪の燗:巳半刻 甲續:未刻半	10	武:22日朝 泰:翌巳刻 俵:22日朝5時	32	20町(内) 貞年3/4は7町 武:20町余	1里(内) 貞年3/4は2里半 武:1里余	内:259万2000坪	2801	2800余人 [内瀧状留]武家方焼失人945人・往未焼死人1856人(=2801人) [武江年表]焼死瀕死 1900余人 [薪の燗]焼死人1218人・其外瀧死之者式萬餘人と云	74	甲續:甲子夜話續編
75			文政12	4/6	1829/5/8	薪の燗:ふし南=南西? 見、池:南	南西	南西	15	1.6	麻布永坂	薪の燗:大田原飛騨守屋敷	薪の燗:飯倉片町・市兵衛町・谷町 見:東側町屋・坂上各町屋・飯倉片町通・市兵衛町残らず・中之町辺・六軒町木戸際留る・なだれ坂・大仙寺に留る・谷町	赤坂溜池		本:薪の燗:8時通 見:昼9時通 池:未刻	14	見:夕方 池:申刻	16		0	なし	75	御徒:御徒方万年記		
76			天保5	2/7	1834/3/16	北松平、火水:北西	北	北	33	3.6	神田佐久間町	藤堂和泉守屋敷屋敷前湯屋	東両国・西今川橋・本町通・築地・鉄砲洲・堂敷島・佃島 馬:470-480町敷、北:1200町余	東両国・西今川橋・本町通・築地・鉄砲洲・堂敷島・佃島		翌5時? 松平:屋時通 見日:正午刻 連:午刻 視聴草:本:8時通 火水:御徒:8時	12	金日:夜子刻 火水:丑刻 連:8日朝5時	24	馬:12・3町 馬:1里	4000	[北斐遺言]4000人余、此外水死又行衛知れず無数	76	馬:馬琴日記鈔		
77			天保5	2/10	1834/3/19	金日:北松平:西北	北	北	21	2.3	大名小路	松平伯耆守邸	保:数寄屋橋・鍛冶橋門 外詳細あり p.525(=2/7-9・10の地図あり)	築地 芝口(2)		本:9時半前 視聴草:屋9時 御徒方万年記:9時半前 金:午時	12	金日:夜丑時 視聴草:夜9時(堀田サマ)	26		0	なし	77	丙:丙役日記		
78			天保9	4/17	1838/5/10	南東見、御徒:南→東松平:南東→東→北東→北	南東	南東	15	1.6	小田原町	御徒:1・2丁目之間湯屋	内神田(日本橋神田見:御徒:小田原町で東風→本町4丁目東風に変わる)	内神田		御徒:松平紀伊守東外長屋少々残る・本郷丹後守半分	9時 本:御徒:9時半前 屋9時通 松平:9時半 見:午中刻 丙:午半刻前	12	本:松平:9時通 見:丑刻	24	本:保:9町 本:保:延23町		-	[御徒方万年記]死人怪我人も有	78	池:池魚録鈔
79			天保13	3/7	1842/4/17	池:南武:西	南	南	41	4.5	牛込通寺町(武:池)横町		池:小日向〜小石川一圓・大塚・飛火し白山〜泉鴨・駒込・染井 武:小石川・小日向・駒込・泉鴨・西が原	泉鴨・駒込・染井・中里・尾久	尾久村(池) 武:西ヶ原まで	池:卯下刻 武:昼時通	6	池:申下刻	16		-	[武江年表]焼死怪我人夥し	79	見:見聞雑録		
80			天保14	12/27	1844/2/15	北池:西見:西北	西	北	15	1.6	鍛冶橋内	松平三河守	京橋一帯(五郎兵衛町・木挽町・新橋)	京橋一帯(丸屋町・出雲町)		池:丑刻 見:齊:夜8時	2	池:未下刻	14		0	なし	80	齊藤月(山の下に今)日記		
81			弘化1	4/6	1844/5/22	金:南池:西南	南西	南	18	2.0	小石川鎮差町(金:池)上、齋:下)	柳町・馬場横町・丸山新町・白山中町	駒込土物店付近(武:佐:) (金:本郷道分辺)		齊:千太木	金:夜半通 齊藤:夜9時半 池:子刻	0	池:曉	4	齊:3町 齊:13町		0	なし	81	嘉:天保弘化嘉永雜記	
82			弘化2	1/24	1845/3/2	武:き北嘉:松、見:西北泰:西	北	北	45	4.9	青山(権田原西丸先手)	久須美六郎左衛門組同心伊藤尊蔵宅	麻布・広尾・白金・伊皿子 武:126箇町	高輪(海辺)		武:言:昼8時通 嘉:午中刻、屋8時半 松平:屋8時半 泰:夜8時	14	松平:9時半 泰:25日朝6時通 嘉:夜亥刻通 言:夜8時	26	10町 嘉:1町	38町 嘉:1里17町	400	若干の死傷を出す [武江年表]幾百人(瀕死合わせ) [池魚録鈔]数百人死 [見聞雑録]焼死3~400人 [天言筆記]町のみにて凡400人	82	増武:増訂武江年表 言:天言筆記 泰:續泰平年表 松平:松平容敬日記	
83			弘化3	1/15	1846/2/10	泰:北西増武:嘉:北	北西	北西	50	5.5	小石川片町北 武家地(小石川馬場向小横町)		本郷・湯島・神田 武:290余町敷	本郷・湯島・神田、鉄砲洲・佃島		増武:嘉:夕8時通 池:未刻 泰:未下刻 金:7時(本郷丸山)	14	増武:屋9時通 池:16日未刻 泰:16日未中刻 金:16日未5時半 嘉:16日7時	38	増武:1里10余町 池:10町 松平:9町半 増武:33町 高:1里半 池:1里余	900	死傷亦少なからず [増訂武江年表]焼死怪我人数ふるにいとまならず...焼死人多しという...見及ひたるもの20人計なり。今川橋南詰に十二三人有 [池魚録鈔]300余人 [ききのまにまに]8~900人	83	聞之:聞之任續編: 火水:水風災難輯		
84			嘉永3	2/5	1850/3/18	北(き、火水)(金:北→西) 續武:池、高、松平、俵、泰:北西	北	北	38	4.1	麴町5裏 高:續武:他:麴町5裏	高:高田穴8番別当放生寺拝借地内蔵の者 政吉留守宅	雑町・平川町・山本町・外桜田 續武:57町敷	芝海浜	高:芝倉町浜町 表町屋 金:金杉4	御徒:4時半 高:松平、佐、火水:朝4時頃 金:續武:池:巳刻 泰:巳上刻	10	高:泰:夜4時 金:亥刻 續武:夜戌下刻 池:夜戌刻	22	續武:4町 高:10町余	續武:33町 高:1里半 池:1里余	-	續武:焼死怪我人数多し... 高:焼死の人多し	84	火:火災調上申 火燭:火燭要領方角附	
85			安政2	3/1	1855/4/17	續武:南西池、聞之、見:南火燭:富士南風	南	南西	15	1.6	小網町	小網町1と堀江長4との地戻境	續武:照路町・小舟町・堀江町...吉川町・浅草見附・浅草森田町・旅籠町... 63町敷	浅草蔵前		續武:夜子下刻 聞之:丑刻 池:夜9時 火燭:夜8時 見:二日晩8時	0	池:二日昼9時 聞之:二日巳半刻 火燭:朝4時 見:二日4時半	12	續武:4町	續武:13町余		0	なし	85	高:高麗環雑記
86			安政5	2/10	1858/3/24	見、嘉明:北西續武、聞集録:北	北	北西	20	2.2	(日本橋)安針町	續武:安針町長浜町2境魚店の納屋	日本橋・京橋の東南部	日本橋・京橋の東南部、佃島		續武:聞集録:戌刻 嘉明:夜5時頃 見:夜5時	22	續武:11日未半刻 聞集録:午下刻 見:嘉明:11日巳中刻	38	續武:4町	續武:18町		0	[見聞雑録]怪我人67人・30人程・7人程・97人程	86	嘉明:嘉永明治年間録 幕:幕府沙汰書
87			安政5	11/15(12/15)	1858/12/19(1859/1/18)	北續武:北西→北東→北西高、見、聞集録:北西	北西	北	21	2.3	神田相生町北方	續武:神田相生町続き西丸裏門番若林源作宅	内外神田・日本橋の大部分・丸の内 續武:小網町荒布あたりで東風が東風に変わる 259町敷 聞集録:1118町	京橋の一端		續武:曉丑時 高:夜5時半 見:明7時 聞集録:曉寅上刻	4	續武:戌下刻 高:夜5時半 見:夜4時 聞集録:夜4時	22	續武:7町	續武:22町		-	[續武江年表]町小路焼死怪我人算ふべからず [高麗環雑記]余程死人怪我人あり、人をも巻上げ御堀に落入死も	87	佐:佐野駿駁日誌
88			安政6	2/22	1859/3/26	續武、見、嘉明:南佐野、齋藤、聞集録:南西聞集録	南	南	55	6.0	青山	續武:荏州下屋敷内松平江州候屋敷内	千駄谷・四谷・牛込・嘉明:大番町・若松町・内藤新宿・高田馬場・早稲田・目白 見:續武:詳細あり	千駄谷・四谷・牛込、音羽町(續武:音羽1西側まで)		見:8時半通 續武:亥刻	2	見:屋4時半 高:屋4時 續武:辰下刻	10	4町 高明:11町 高:1里半 池:4町余 見:1里28町余	280	焼死負傷者其数を知らず [見聞雑録]焼死怪我人280人余 嘉明:死人怪我人等あること最多し [續武江年表]焼死怪我人...数を知らず	88	黒:黒川秀波筆記 東:東京府全管内諸災調上申		
89			慶應2	11/10(11/9)	1866/12/15	續武:北見:北西	北西	北	28	3.1	元乗物町	京橋 續武:詳細あり 153町敷	京橋 續武:詳細あり 153町敷	京橋・八丁堀(續武:佃島・石川島・鉄砲洲)		續武:9日夜子半刻→10日の0時 見:夜8時 高:夜8時半	2	續武:10日昼通@京橋手前 見:11日昼9時通@佃島	36	續武:7町余	續武:21町余		-	[續武江年表]焼死怪我人多く [見聞雑録]怪我人128人	89	

火災録の江戸大火以外で10町以上 4.p.507 元禄16年11/18四谷北伊賀町一芝礼ノ辻(3km以上) 1里=36町=3.9km、1町=60間=109m 【北】10(24)時=夜半=子=九ツ 2時=夜=丑=八ツ 【北東=辰】 4時=辰=寅=七ツ 【東】6時=卯=辰=五ツ 8時=卯=辰=五ツ 【南東=戌】 10時=辰=巳=四ツ 時上1 【南】12時=真昼=午=九ツ 14時=辰=未=八ツ 【南西=申】 16時=申=未=七ツ 【西】18時=暮=酉=六ツ 20時=酉=戌=五ツ 【北西=乾】 22時=夜=亥=四ツ 時上1 秋分春分の日を基準